

方言録音資料シリーズ—13

静岡市旧大川村方言（1）

国立国語研究所編

1972

もくじ

収録地点とその方言について	1
表記について	7
本文 (大工の親方)	10
(1)	11
(2)	26
(3)	37
(4)	81
注	91

このテキストは、方言研究のための資料として
つくられたものであり、録音テープは国立国語研
究所に保管されている。

この巻におさめた方言の録音とテキストの作成
とは、すべて国立国語研究所話しこば研究室の
もとめによって、この方言にとくに造詣のふかい
山口幸洋氏がおこなったものである。

収録地点とその方言について

1. 収録地点名 静岡市上湯島（旧大川村地内）

2. 話し手

（略号）（氏名）（性別、生年）（職業）

A 大森 実雄（男、明治45年生まれ）大工

（居住経歴）0才～15才まで大川村崩野、16才より大川村

湯島（現静岡市）で大工の弟子入りをし、今に至る。

B 湯本 幸作（男、明治43年生まれ）農業

（居住経歴）0才より現在地（上湯島）。

C 湯本 みや 幸作妻。

（居住経歴）20才まで湯島、以後、上湯島。

D 藤田 光司（男、明治35年生まれ）農業

（居住経歴）0才より現在地（湯島）。

Y 山口 幸洋（男、昭和11年生まれ）商店経営

（居住経歴）0才より、静岡県浜名郡新居町（採録者自身）

上記のうち、C、Dの発音は極度に少ない。又、B、Yもなく、全編を通じては圧倒的に、Aの発音で占められる。B、C、D、Yいずれも聞き役である。Aの方言は正確には崩野方言といるべきだが、当録音に現われた文法、アクセント等の特徴は殆ど「上湯島」と異なるものではない。しかし、収録地点とその方言名は「静岡市旧大川村」方言とする方が良いだろう。

3. 旧大川村概観

安倍郡大川村は、井川村、梅ヶ島村などとともに、昭和44年4月静岡市に併合された。これにより安倍郡は全部なくなつたのであるが、それまでの安倍郡は、安倍川上流の大河内村、梅ヶ島村、玉川村、薬科川上流の大川村、清沢村と、更に大井川上流の最奥部、井川村とからなり、それぞれ高山に境された辺境地帯である。旧大川村は、北は旧井川村、東は旧玉川村、西は榛原郡本川根町に接しているが、相互に自動車道はなく、いわゆる閉塞谷の貌を呈している。村内においては、坂ノ上^{さかのうえ}、日向^{ひなた}、湯島等は川に添っているが、大間^{おおま}、猪尾^{いのき}、崩野は源流地帯の高地に位置して、地勢は異なる。村中にかなりよく流布している伝説によると、大川村は大間より開けた、といい、大間の開拓は鉄術使いの砂宮大夫^{さなみだゆう}であって（砂宮は現存する）、井川村と縁があったという。

一般にこの地方の歴史的由緒は明らかでないが、大川村は駿河茶の発祥地とされていて、茶の栽培は早くから取入れていた。桶沢^{おけざわ}という部落は、駿河茶の元租、第一園師（1200～1271）の出身地であるという。

4. 収録した方言（旧大川村方言）の特色

- (1) 当方言は、旧井川村方言や榛原郡本川根町方言その他のとともに、この地方で「ギラ」と呼ばれていて、分類上一型アクセント方言に属する。したがつてこの方言最大の特色は、その「ギラ」と呼ばれる独特の文アクセントにある。そして更に、特有の「句読法」「語調」を感じられるのである。しかるに、これらについての記述の方法論、又、他の諸方言との比較の基準も未だ、ないので、今後の研究を待たなければならない。
- (2) 当方言は村の人々の間での定評として「井川のことばと一緒」といわれている通り、それは殆ど事実である。しかしこのような異同が「音声」分野にあるのであり、これらは通時的に井川より古い面かと思われる。

1) 語頭がへ行音で始まる動詞の場合、バ行音で発音されることが極めて

稀にあるようである。但し通常は（但し、ヒップル＜降る＞、イッパシル＜走る。行く＞等、擬頭韻を伴なつていうことが多い。

ロ) ai>aa:、又は、e:、oi>ø:のような、母音の連声化は、ないに等しい（単語別に例外的なものを除く）。

ハ) ワ行四段活用動詞の仮定形、命令形に〔wə〕があらわれる。

（例）〔utaWe〕歌え。

しかし次の特徴は井川方言と共通である。

ニ) ガ行音は、語中語尾でも破壊的〔g〕である。（駿河、遠江では、この井川、大川と清沢一部のみの孤立的特徴）。

ホ) 語頭の／ø/は〔jø〕と発音される場合がある。（静岡県の山村地带に共通）。

ヘ) /d、z、g、b/音の前に促音が立ちうる（よくあらわれる。ギラ方言に共通する）。〔bibbo:〕（貧乏）、〔kodda〕（今度）のように接音に對して交替するものと、〔amedde〕（雨で）、〔so:dda:〕（そうだ）のように、添加するものとある。

ト) 無声子音に挿まれた母音〔i〕、〔u〕の無声化は東京方言と同程度（静岡地方にあっては、ギラ方言のみの特徴）。

（3）文法面の特徴は、ギラ方言、特に井川方言と共通である。

イ) 待遇法の未発達（駿遠の山村と共通）。

ロ) 助動詞的なもので「推量」のヲ、ズラ、「意思」のズ、「過去」のケなどが目立つ（駿河一般と同じ）。

ハ) 静岡市とその周辺に広まっている助詞ンテ（理由の「から」の意）はこの方言になく、デ、モンデがそれに代わる。

ニ) 「否定」のノー、「禁止」のソがある。（ソは、實際に使われることは今では稀）。

5. 地点選定の理由

「特色」の項で述べたように、当方言は、井川方言と同じか或いは一部に古い面をもつ方言であるが、これまで殆ど無名であったので、これを紹介する。

次に、井川がダム建設後の観光開発と急激な人口減に伴ない、「良い話者」の選定に困難を感じられるのに対し、大川はその点でも期待を持った。

次に、大川方言は、同じギラでも井川方言や本川根方言に比し、その文アクセントに変化があるとも考えられるので、その実態に接する必要があった。

6. 当録音採用の理由

特にこの地方においては、話者の性質及び会話の場面によって、方言の自然さが失なわれる度合いが大きく左右される。例えば「否定」のノーなどは、実際は年少者のあいだでもよく使われているのに、私ども他所者の前では、村人どうしても、ナイを使うほどである。この土地では、よくよく恵まれないと、その実態に気づかないで終るおそれがある。

私は、村の庚申講に出席してそこでの雑談を録音することにしたが、あらかじめ、村の人にそのような会合に出席すべく承諾を得る、或いは相談をかけた。この録音は、その相談をかけた際の録音である。ナショナルのカセット式テープレコーダー「30-21J」を使用したが、録音していることは知らせてなく、話手達は気づかなかったもようである。又、このときの話手の中心、大森実雄氏は、私が大川村へ車で向う途中、バスに乗り遅れて道ばたに立っていたところを、のせてあげた人であるが、この人がたまたま、本人自らいう通り「方言を直して話すことができない」人であるとともに、たいへんな話し好きであるため、方言の自然談話採取という目的のため幸いした。大川村での私の経験から、これほどの話手は珍らしいように思うので、特にこの録音を文字化対象として採用した。

7. 内容のあらすじ

(1) ~~新潟方言~~ → 2-7

山口が録音のため、村の人がごく自然に話しあうような場所へ出会わせたいむねを伝え、協力を依頼する。そこで大森さんと湯本さんが、どういう人が良いかなどと話しあいながら、結局、庚申講に出席するのが良いだろうということになる。その間、村の人何人かについて、その話しぶりや対人的な性質を語る。

(2) ~~→ 6-4-9~~

大森さんが、いびきを録音にとられた経験を話し、次いで録音をとるにはどうするかという話に戻る。そして再び、村一番の口達者だという、ドカーン辰のことなどが話題にのぼる。

(3) ~~→ 6-1-2-2~~

村内各所の庚申講のメンバーの批評を通じて、日向の人達がおもしろいなどという。庚申講の加入者は、創価学会員が抜けたりして最近少なくなったことなどの近況に及ぶ。そのあと山口が方言のことを二、三聞くと、それにつれて方言の別の単語とその用例などの話が出る。次いで再び庚申講へ出るための手順や、その家の人の気性を考え合わせて、八月八日、上湯島の八兵衛さんの家に顕ればよいというような話になる。

次に、私が「大森さんは弁もたつし声が通る」と云ったら、大森さんは「静岡市の大工建築業組合の組合長は良い人だが声が通らない」といったような話をしはじめる。そしてここから話がどんどん進み、大森さん得意の長広舌がつづく。曰く「俺はその組合長の家の泊めて貰ったのが、そこには孫という弟子がいる。その孫という若者は、健ちゃんという大工の子で、俺はその健ちゃんの兄弟子に当るのである。そもそも健ちゃんこと木村健一は、木村豊作という大工の子であるけど、豊作について大工を習い始めたのは俺の方がわずかに早かった。それで俺と健ちゃんとは年は同じだし、腕前は健ちゃんの方が上だけれども格としては俺の方が兄弟子にな

る。豊作の親は庄助大工で、庄助の親が木村辰蔵である。

辰蔵は正しくは木村辰蔵院部正保と名乗るその昔の大工の大親方で、静岡の浅間神社の普請をしたとき上からその苗字と号を贈ったほどの人である。俺はかねてより自分もその流れを汲む者として辰蔵のことを知りたかったのだが、昨年、さる事から、木村辰蔵が鹿巣2年に崩野の親音堂の普請をしたときの絵図面を手に入れたばかりだ。ところが過日、崩野の大川井清さんには「貸してくれ」といわれて持っていかれてしまった。あとで考えてみると、あの絵図面は崩野で代々の廻徒継代である大川井さんに有利があったのかもしれない。しかし俺は崩野の宝光寺の和尚に貰ったものであり、決してだまして取ってきたものではなかったのだ。

およそあの絵図面については学なども俺が苦労して解説したものだった」

(4) 1-2-3-4-5-6-----

「あの図面はどうしてお寺にあったのか知らないが、俺は崩野の実家で、お爺さんの体がわるかったとき、お寺に頼んでいた二夜三日の祈禱のおふだを貰って帰るときに、和尚から呼びとめられて、あれを貰った。和尚は老令でもう抜け気味だが、日頃俺がことばをかけたりしたものだから和尚の方も俺を好いていたようだった」ざっとこんな調子で、余分なことを云いながら話は更に続く。木村豊作についての思い出話も面白いのだが、文化化は一応打ち切ることにする。

表記について

(1) 指定の字母以外に使用した字母としては〔æ〕、〔ɸ〕がある。いずれも連母音が融合する場合にあらわれるもの（母音の連声という）である。

例、ojadagaseə: (親だがさ)、kitagaseə: (来たがさ)、jɸ: (良い)

当方言には本来、ai>æ:、oi>ɸ: のような母音の連声化はないが、このことは実は、当「静岡市在」の地方においては孤立した存在なのであり、この方言は目下、静岡市方言など「連声化のはげしい方言」の影響化にあって、連声発音が混じることが、すでに以前からの新しい傾向である。当録音にあらわれた〔æ〕、〔ɸ〕は、例としては少ない方で、用例も限定されている。文末助詞「さ」([sa:]又は[sai])と「[sə:]」にあたる〔æ〕と、「良い」([jɔi])と「[jɸ:]」にあたる〔ɸ〕の例のみとなっている。

ほかに非共通語的音節としては

tju 「～という」の場合のみ

we 動詞「歌う」「会う」などの仮定形、命令形にのみ

wo //o//の語中語尾の場合、格助詞「を」の場合を含む。

je 語頭の//e//、「可能」の助動詞「エル」の場合にも。

などがある。

(2) 句読点。当録音の話手達の談話体は、句読法がやゝ異色であるように感じられるが、これは方言的なものと考えられるので、将来の研究の一助になればと思い、あえて句読点を記した。「句切り」は談話中の呼気の段落であり、觀察に際しては、それを感じた個所に、句読点「、」を付したのであるが、それはあくまで私が感じた「句読」なのだから、おそらく私の主觀が混じっているかとも思われる。今後、検討の余地がある。

(3) アクセント。アクセントは、句読点から次の句読点までの一句切りを単位とし、その単位内において、声が上がる所を「、下がる所を「」であらわす。この上がり下がりの組み合わせが意外に複雑であるとともに、この方言の特

徵として今後の研究資料として価値が高いと思うので、以下にその記載例の読み方を解説しておく。

na fosa [naiga] na

na から oにかけて上がり、 oから sa まではその高さをほぼ持続しつつ saから naへかけて下がる。そして naiga は 音節同じ高さのまま、末尾の naで上ったもの juq [cja:] dame [lka]

この例における cja: と dame は、ほぼ同じ高さであるとする。

「so Nnakol to : juq [cja:] dame [lqa]

この場合は so が最初からやゝ高め（普通に so [Nna] と発音する場合の Nna の高さ）に発音され、その高さをほぼ持続したままの ko が、 to へかけて下降することを示すが、次はその低められた to : の高さと同じ高度 ju が始まり、 cja: が再び高くなったあと、 : にかけて下がる。しかし今度は低くなってしまった dame の me が再び次の qda にかけて下降を起すので、 cja: からは二段に下がったことになる。実際には、このような具合に、三段四段と下がることがありうる。

na [ruhodo

na から ru へかけて下がるのだが、 na の始まりの高さが普通より低く感じられるもの（普通に so [Nna] と発音する場合の so の高さ）。

「sonolto [kino

no から to へ下がり、更に続けて ki へも下がる発音。このような発音は、結合の強い連文節、或いは複合語、また、 o [ku] mo Nnasida [de] na : のように、文末助詞 na : のあらわれる場合によく起ることに注意したい。

..... kore lqcju: [tol jujje [hai: jaqpari

文節末の to が高く発せられたあと、 jujje は低く読くが、そのあと更に i が起きる。次は i 「 : のような文節末上昇が起きるが、 jaqpari はその高さを持続したまま発音させられたものである。

..... ju: [ga , kokono

このような場合は、 ga が上昇したあと句読があるので、その高さはここで打ち切られ、その後の kokono は、改めて一段低く発音されたものであることを示す。前記 jaqpari の場合は、その前に句読点がないから、前の文節と同じ高さなのであり、前が高ければ高く、低ければ低いということになり、この kokono の場合のように、前に句読点があると、「がない限り、必ず低く発音されたこととする。

大工の親方

(1)

録音日時 1970年7月17日

録音場所 静岡市上湯島湯本幸作宅

話し手 (略号)

- A 大森 実・雄 (明治45年崩野生れ、湯島在住)
- B 湯本 幸作 (上湯島)
- C 湯本みや (湯島生れ、上湯島在住)
- D 森田 幸司 (湯島)
- Y 山口 幸洋 (探録者)

解説：録音のため村の寄合に出席したいという山口の申出について大森さんと湯本さんが話しあったところを録音したもの。大工の親方の思い出話など雑談が多い。

A a^{ra}wa hi^{nata}tarino sju:ga ju^{zi}maatarino
あれは 日向あたりの 畠が 崩島あたりの
sju:gorika kekikoku ko: ki ga na^Ncju:zuraka
畠より 茶局 こう 気が な^N何といふだろうか
ko: si^toni osarenco: qeju:daka zo^{ka}inazuraka,
こう 人に 押されないというか 世間ざれなのだろうか
so^{lide} mu⁷kidasideite., ju zimanimo
それだから むきだしでいて (不明) 湯島にも
so^{ju:sito}mo i^ruzuraga
そういうも いるんだうが
B i^russ^re
いるさ
D i^runja⁷: iru^rjo
いるには いるよ
A morokoza:no ki^joomitaina sitoga^r mo^rrokoza:nimo
諸子沢の 清男みたいな 人が 諸子沢にも
irudasi^r hiⁿnatanidaqatemo ma^rta aratame^rqa
いるんだし 日向にだって また 改たまって(不明)....
ha^ltena.
さて

B 「aNnana」: i^{ka}n^e are^{da}:
あんなのは 一并 あれだ

A 「ho^orezja:」sa, 「o^omano megumu^oNcio mⁱte m^o」:
それではさ 大間の めぐむさんの家を みて みよ
do^okono sitodaka si^orano:jo:na ko^otoba: cuka^oda^oha^o:
どこの 人だか 知らないような ことばを 使うんだな

B 「so^o「t^oka hu^o」N
そつか ふうん

A megumu^os^aN
めぐむさん

B na^oite^oka^o: mu^okucizja^o: nai^oka^o
直してか 無口では ない(○)か

A 「nacite^osa, arja:」「nacite kire^o:ni nao^oicagteite
直してさ あれは 直して がくに 直しちゃっていた

anoso^oto
あの人

B q^otara^o tonikaku omosiro^oina^o: mazu^o
..... ったら とにかく 面白いな まづ

hi^onatazja^o: do^okaNtacuga icibaNdaga^ona^o:.
日向では ドーカン版が いちばんだがな

na^oRejuqta^o ho^o
何といっても

D jarekujca: i^{wa}i^o
冗談が うまいよ(いいよ)

A o^oku^omeNnasida^ode^oha^o:
隠面なしだからね

B 「do^oka」Ntaca: arja: 「o^oka:mu^oraqde^ono^o」 naNgura^o,
ドーカン版 あれは 大川村での 何だろ

jokozu^onzazura^ona^o: arja:
横綱だろ あれは

D o^og^oja: tora^ono^o:
見気は とらない

B o^og^oja: torana^otoju^okoto^oda^o
見気は とらないということだ

D 「daga: jaqpa^ori i^lmaju: sonona^o: , ko^okowa^oq
だが やっぱり 今いう そのな ことは^o
「teju:tokoqza: sjaberrie^onaizja:naida^oka^o: ,
ていう所では しゃべることができないのではないか あれだ,

ja^orekujca^o: ju:
冗談は いう(のだけれど)

B ja^orekujca^o: ju:qdaga ma^otomaqtakoto kore^oacju: to^o
冗談は いうんだが 整ったことを これだけっていうと

jujje^onai^o: jaqpari
いうことができない やっぱり

A soizja^o: i^{ke}「nno haqpjo:da^onaNteju: to^o
それでは 意見の 発表だなんというと

B 「so^oju^o:kota: da^ome
そういうことは だめ

A 「dame^oka:
だめか

B da^ome
だめ

D he^ode^omo sono so^oNtokuni kaka: lutoka, se^okiniNzjo:
それでも その 振得に 開わるとか 責任上

sjaberanja N:no:naNteju: to^okoq^ozja: sjabu^oruo
しゃべらなくては ならないなんていり 所では しゃべるよ

anoooto^oka, ija soiqde^omo, koq^ozjo:ga ciga^ou,
あの男は いや そいでも 横性が ちがう

wa^oreward^ota: ciga^owa:
我々とは ちがうよ

- A 「ci¹wa hi²teo temo³ka⁴」
血は 引いていってもか
- D 「ci¹wa² sa hi³cja⁴: ino⁵qda
血は 引いては いないよ
- B 「ci¹wa hi²cja³: ina⁴qda
血は 引いては いないよ
- D ci¹wa hi²cja³: ino⁴sa
血は 引いては いないさ
- C do¹kaNtacu to²ka³:
ドーカン族とか
- D o¹regra²: hi³cja⁴: ino⁵ ka⁶neicira⁷: hi⁸te⁹ru.
俺とは 引いては いない カネイチ達は 引いている
- o¹mi²jaqdano ka³neici⁴ra⁵: hi⁶te⁷ru
おみやがのの カネイチ達は 引いている
- B a: mi¹wa, ci²wa hi³cja⁴: inaida⁵jo
あ～いは 血は 引いては いないんだよ
- A a: ciwa, hi²cja³: ino⁴qda⁵na⁶: arja sa⁷kutacu,
あ～血は 引いては いないのだと あれは 作威
- 「sa¹kuadamoqda
作威だから
- B o¹hukuroto ko²icuto to, kjo³.daiqcju:
おふくろと といつと (不明) と 姉妹という
- dakenomonde
だけのもので
- A i¹tokogda²jare o³ra⁴.....
いとこだよ 俺の(不明)
- B ke¹to²zja naidah³sa
系統では ないのがな
- D do¹mo, uma²isju³ga na⁴i⁵na⁶: ora⁷Nho⁸nja⁹:
どうも、 異常の友人が ないな 俺の方には

- B 「zju¹saku²sa
重作さ
- D a¹a²: zju³saku⁴ga⁵ jo⁶karō⁷: na⁸: korja⁹:
あゝあゝ 重作が よからうな これは、
- 「ho¹nniNdemo tokudane²Nte juctara do³de⁴:
本人でも 徹だ (知りになる) の意) なんて云ったら とても
- B 「soNnako¹to: jug²cja³: dame⁴qda
そんなことを 云っては 失めだ
- D jug¹cja²: dame³ka
云っては 失めだ
- A ko¹toba: naosuka²ja³ rju⁴: ni⁵wa
ことばを なおす (改める)かな リュー兄 (リュー) は
- D na¹os²hai
改めない
- B na¹osa haiga²na, i³kuraka⁴ke⁵.kaisiruda⁶ze
改めないがね いくらか 賛成するんだよ
- sorjo¹ju:to da²reqe³mo⁴ ho⁵da⁶ga
それをいうと 誰でも そうだが
- Y iya, ro¹kuNo² to³ru, to⁴rutowa jug⁵te⁶mo
イヤ、 瞳音を 取ると 取るとは 云っても
- e¹kedo ne²:, sono³, ko⁴toba⁵o kiki: *ki⁷taqteju:-
良いけどね その ことばを 面きに きたたっていり
- 「to, mazuirasi¹:de²ne, ko³toba⁴zjanakute, ta⁵da.
と まずいらしいんだね ことばじょなくして ただ
- ha¹nasi²o kiki: ki³tato
話せ 面きに 来たと (云えは良い)
- A keq¹kjoku ho²daga aNtawa ano, ko⁴tobao, ro⁵kuNo
結局 それだが あんたは あの ことばを
- to⁶qte, ha⁷n⁸sutokoro⁹: ano:, arewo, zu¹⁰gto.
と って 話すところを あの あれを ずりう

ko¹sawano²qte³mo joiwakegu¹ra²naniga³ soNha¹ ba²ka³:
 さえなくとも 良い歌だらう 何が そんな はかを
 site¹ruto²ka³: na¹datokane²ju³: sonokoto¹wa², wo³,
 してるとか 何だとかっていり そのことは も
 tada, hi¹roeja²: i¹wakegu²ra³, hi¹to²koto³ hitokoto
 ただ、 押されば 良い歌だらう ひとと ひとと
 hoiqsja:, na¹nijugta² ko¹ni:ra²: kono, te¹kiwa²
 それでは 何云った 幸兄達は この あいつは
 nango¹: hakoidei²ruqe³ ko¹ju²:wakeda³na¹: hoide²
 何を (不明) でいるって こういう歌だな それで
 hama¹macuno² ho¹zja²: do¹ko²ju³:koto¹ju², o¹ka²:-
 高松の 方では どうういうことをいう 大川
 zja¹: jakuta²imoni³ soNnani¹ hataraita² qte³ naNda¹-
 つまらない そんなに 働いたって 何だ
 teja¹ na¹ho²ju³, i¹roju² sono, sono¹to²kino,
 なんて いろいろ その そのときの
 koko¹no ko¹to²ba³ ga aruno¹Mone, so¹redakiwo,
 ことの ことばが あるのね それだけを
 i¹cigoici²go hiroqta³dake¹ demo² jo¹iwakegu²ra³
 一語一語 挑っただけでも 良いわけだらう
 B do¹ko, ma¹iseaka²qte³ ju:da¹ka
 どく? 舞阪って いうのか (Yに向かって)
 Y ko¹Ndowane²:, u¹Nso²:, ma¹isakanoho²:
 今度はね (Aに) ウンソラ 舞阪の方 (Bに)
 D to¹Johasino cikakuuda²ka³: ja¹:
 豊後の 近かね
 Y so¹ni kikuzja²nakute, jaq¹pa²ri³ sono, se¹keNba²
 そういうふうに さくのではなくて やっぱり その 世間話
 nasio¹ sito²rutoko³: a¹rinomama²o
 を している所を ありのまま

A a¹rinomama²ka, i¹cigoicigo² te¹rugdena²ku,
 ありのままか 一語一語 とのではなく
 i¹cigoicigodemo e²:
 (又は) 一語一語でも 良い
 Y ko¹toba²o³ sono:, ko¹toba²o³ ki¹ki²ki³taqte¹ ju:zja²:
 ことばを そのう ことばを 聞きにきたって 元々のでは
 na¹kutene²: ano¹, mo²:, a¹rinomama²no, sond³:
 なくては あのう まあ ありのまま のう
 ba¹kaba²nasidemo³ na¹Ndemo e²: de¹ha²nasjo³: , so¹ru²:
 ばか話でも 何でも 良いから 話を そういう
 hanasjo¹: kikitai²to, so¹redake²
 話を ききたいと それだけ
 A so¹:ka
 そりか
 Y mo¹ciro²W, u¹tao² utaqte³mo e¹: si²ne³:
 もちろん 数を 歌っても 良いしね
 A ko¹Nciwa²qte³ ju:ko¹to²o, o¹qte² ju:to¹ka² ko¹Nciwa²
 今日はって いうことを おひって いうとか 今日は
 qte¹ ju:ka²rini³ ko¹korazja² o¹iqeju² zo³ korja:
 て いう代りに ここでは おいっていざ これは
 o¹iqte² ju: ko¹Nciwa²qte³ Ju:ko¹towa², o¹qte²
 おいって いり 今日はって いうことは。 おいって
 ju:¹ga, kokono¹ koto²ba³qte¹ ju:¹o, hosi¹wake²
 いうのが ことの ことばだって いうのを ほしいわけ
 qzja¹ naida²na³:
 では ないんだな
 D dore¹:
 どれ (子供に)
 A so¹re² hosi¹izjana²ida³: ore¹ so¹re² hosi¹da²
 それを ほしいのではないのだ 俺は それを ほしいのだ

tomo¹ataoja
と思ったんだ

Y 「so¹:zjana¹」, 「go¹ku hu¹cu:ni miNna¹gane¹」:
そうじゃない ごく ゆうに みんながね

A 「hans¹sutoko¹」: , ko¹rewa, 「cja¹kari
話す所を (不 明) これは 茶摘み

C jaqteru¹jo, 「wakaisju:wawa toko¹no: iqtacjo:」:
やってるよ 若い者は (不 明) 行ったそうだ

A 「toko¹no: iqt¹a
(不 明) 行った

D iq¹te mi¹aza orja: hoqjza:
行って みよう 俺は それでは

A 「i¹:zu¹ra micu¹ni: becu¹hi
良いだらう 光児 べつに (無いで行かなくても、の意)

D 「na¹:hi konomero¹iga ora ke¹sa ki¹tadaqke¹.ga ,
なにに この (女の) 子が われは 今朝 来たんだけれど (不 明)

「a kikoga mesi¹hi ku¹ruda naNteju:de ,
あの子が 顔に 来るよ なんというから

A iwano:ga
いわぬいが

B to¹ciza¹de ju¹nda¹i gadd¹daa¹cja:
折沢で いうんだよ ガドーだって

A 「gado¹daa¹te ka sito¹nokoto¹」:
ガドーだって? 人のことを

C abu¹hai¹so:
あぶないぞ (子供に)

A soide¹soNnani to¹kubecuna koto¹ba: cukaqtqaet¹mo
それで そんなに 特別な ことばを 使っても

dame¹daqtade, o¹raga mu¹ka:no o¹jae¹ne:ga naNdaq¹ke
だめだて云ったから われの家の 向いの おやじ爺が 何だっけ

jae¹ne:no kotoba¹: okasi¹:zjanaika, iq¹pu:
やえ姉の ことばは おかしいじゃないか

ka:gtelruzjanai¹ka a¹rewa¹ ano:, 「o¹:kawakotoba¹qzja:
愛ってるじゃないか あれは あの 大川ことばでは

naida¹in¹na¹: , 「o¹:kawakotoba¹qzja:aruga anosito¹wa,
ないんだよな 大川ことばではあるが あの人は

to¹kubecuna¹ a¹ju: kucjo: ki¹ku¹qda:「na¹」: «soi¹damo-
特別に あという 口を 利くんだよな それだ

Ndade are so¹:ju: arenja: naru¹mai¹qcjuqtaqjza¹:
から あれ そりう あれには なるまいといったわけ

arja:, 「ma¹:zu anosito¹mo noborikudari jocqja:,
あれは ます あの人も 登り下りに (私の家へ) 寄っては

「jo¹:monani sjaberuga¹ ma:zu okasi:, a¹nosito¹no
用事もなく しゃべるが ます おかしい あの人

kotobawa, u¹ra oNnasju:domoga, sugo¹ku manega
ことばは おれの 娘の女どもが すごく まねが

sijoidaka do¹daka, siruqda¹:ja:, jaene¹:no
しよいのか どうなのか するんだよ やえ姉の

kotoba¹o
ことばを

B hi¹na¹takotobada¹ jo jaeno kotobawa
日向とばだよ やえの ことばは

A hi¹na¹takoto¹ba¹ka, keq¹kjoku hinatakato¹tobadactemo
日向とばが 終局 日向ことばだっても

i¹:zuraga hi¹natakotobawa hinatakotobaqde,
良いだろうが 日向ことばは 日向ことばで,

juzimanokotobawa juzimanokotobaq¹de, jamagucisaNwa
島昌のことばは 濱島のことばで 山口さんは

「o¹qz¹ra¹ sorede, o¹:kawako¹tobaqteju:「to,
良いんだよ それで 大川ことばっていうと

- juzimanoma:sino kotohaga , o:kawakotoba'da'ka ,
湯島あたりのことばが 大川ことばのか(どうか)。
- sa'kanokami'qteju: no'ga a'rudaga , sa'ka'nokaminoko-
坂ノ上っていう所が あるが(それなら) 坂ノ上のと
- toba'wa f'do'ju:kotoba'daka , ko'siNs'a'Nnidemo kite
とばは どういうことば(ということになる)か 庚申講にでも 来て
- jaq' teikja: e'waja soiqzja: kimi: 'na:
やってけば 良いよ それでは 君 なあ
- Y ko'siNsaNwa ma': zju:icigacu , i'cugoroni na'rudaN ,
庚申講は まあ 十一月 いつ頃に なるの?
- 'na'ruda'ne': , ko'Ndowa
なるんだね 今度は
- B ni'ka'gecuni iqpe'Ndade , ko'naida jaqtabaqka'dade ,
二ヶ月に 一度だから、 このあいだ やったばかりだから
- e:to , ra'i'gecuno , sjana'i
えと、 来月の じゃない?
- A 'ra'igeceN narazu'ra'na':
来月に なるんだろうな
- B 'rai'gecuno ikuNci , saru'nohida'na':
来月の 痺日、 猿の日だな
- Y to'baito'rutzjana'f'i , to'basite'ne': , 'ne'Nni
とばしてるんじゃない? とばしてね 年に
- ni'ka'idako soko'ratokaqte'ne
二回かそこらとからってね
- B 'so:'qzjanai'da
そりゃないよ
- A ciga'jo , 'keqkjoku'ja 'so'nohiwa 'ko'siNs'a'Ntoju:
ちがうよ 結局ね その日は 庚申講という
- hiwaja omae , i'cine'Nni na'nako'siN a'rutokito ,
ひわやお前 一年に 七回 あるときと
- roq'kaia'rutokito , xi'magte'rudade , 'ko'siNsaNto
六回あるときと 決ってるんだから 庚申講と
- ju:hiwa
いう日は
- B 'korjo: mi'rja: waka'ra: , ka'no'e'sa'ru
これも られば わかるよ かのえさる
- A 'ko'siNsaNtoju:wa ano: , ki'mja: wa'ka'ide
庚申講といいのは あの 君は 若いから
- si'rano'zuraga ka'noesa'rutzteju:higa a'rudade'ja ,
知らないだろうが かのえさるっていう日が あるんだから
- ka'noesa'rutzteju:ja , ro'kuzju:iciNci'meni iq'po'Nsika
かのえさるって言えば 六十一日に 一度しか
- kono'toki ko'rega inu
来る時 これが いぬ
- B so'notoki'nja: maq'taku' sono naNda'na': 'ko'N'da
その時には まったく その 何だが 今度
- da'k'ja to'ja
どこ? トヤ(頭懶)
- A u'raga u'ci'ka , cju:'be:daqgju:'ko'tosa
おのの方の(トヤの)家か 忠兵衛だってことさ
- B cju:be'sja ma'zui
忠兵衛じゃ まづい
- A da'me'qda
だめだ
- B soide si'taqka:de ku'mi'de , iq'ke'Nmo aruga
それで 下の方で 犀で 犀野も あるが
- A hi'ciza
七左衛門の家
- B hi'ciza
ヒチザ

A korega cu^{ki} noeno to:jada^{jo}
これか (不明…次の) トーヤだよ

B hi^{na} taqdemo jaruzura^{ka}
日向でも やるのだろうか

A hi^{na} tqdemo ja^{ru} sa, arja: dokoqdemo⁷ jaru qda
日向でも やるさ あれは どこでも やるよ

B ko⁷ da hicizae moqteku^{ka}, to⁷:jano ho⁷ ka
今度は ヒヂザヘ 待っていくか 頭原の 方か

A so⁷ sjanaidajo, ciu⁷:be:da⁷ jo
そうじょないよ 忠兵衛だよ

B ija⁷ oju⁷:be⁷ to hicizata: ciga⁷ ka, so⁷ nocugja:
いや 忠兵衛と ヒヂとは もがうか、 その次は (不明)

A ko⁷ reeda, ko⁷ re jo⁷:kada, hi⁷ cigacujo:⁷ ka qda,
これだ これ A日だ 七月八日だ

a⁷ re, hi⁷ cigacujo:kadaga korja na ni ja: kjo:wa
あれ 七月八日だが これ何? 今日は

rokugacuju:iqkazanjai, kjo⁷: i kuNciq da i ata:
六月十庚日じゃない 今日 (から) 今日 (から) 翌日だ あとは

Y hi⁷ cigacu, zju:hiciNci⁷ de ne so⁷ rja: kjo⁷:damoN
七月 七十七でね それは 今日だもの

A a, koro⁷ ga so⁷:ka, hi⁷ ci⁷ gacuzju:hiciNcide
あれ これが そうか 七月十七でて

ko⁷ rowaja:
これか?

Y so⁷ rja: kju⁷:no hicigacuhiciNci⁷ de ne, ha⁷ cigacu
それは 旧暦の 七月七日でね 八月八日

jo:kada⁷:
だよ

A ka⁷ noesaru, ko⁷ nohiq⁷ da⁷ na:
かのえさる この日だね

Y ha⁷ cigacujo:ka
八月八日

A gja⁷ ba⁷kani, konoaidaga na⁷ iq⁷ ke⁷ na⁷, arasu⁷ ka⁷
ジエ バカニ このあいだ なかつたな あるもの

na⁷: arijo⁷ wanai⁷ wa
ありようはないよ

B cju⁷:be:zja⁷ mazuina⁷ :, ho⁷ kani to⁷:ja: do⁷ koqzura
忠兵衛では まづいな ほかに トーヤは どこだらう

i⁷ kukumika
残組か (あるはずだから、の意)

A cju⁷:be:ga⁷ rana⁷ :, o⁷:o, ho⁷ kano⁷ to⁷:ja: ka⁷:
忠兵衛からな おゝ 他の トーヤか

so⁷ rja: micu⁷ zi:raga kumimo arja: kimu, kimirato
それか 光慈達の 里も あれは キム キムラト

micu⁷ gito iqsjø⁷ da⁷ kaja:
光慈と 一緒に

B jo⁷ ku⁷ iqkunia
よく 一区内

A ka⁷ mi⁷ juzima doka⁷ ja⁷:
上瀬島は どこだ

C ha⁷ ci⁷ be:dajo ko⁷ qda⁷:
八兵衛だよ 今度は

B konda: hac⁷ be:dajo
今度は 八兵衛だよ

A ha⁷ ci⁷ be:taramo arja: koto⁷ bamo na⁷ o⁷ icja:
八兵衛だよ あれは ことばも ましては

sjaberia⁷ no⁷ na:
しゃべることができないな

B na⁷ o⁷ icja: sjaberieno⁷ ga anosita:, ha⁷ zi⁷ mekuNga
ましては しゃべることができるなし あの人は 一君が

wa^r riai^r koto^ba^ga kire^l.^rna^l:
 わりあい ことばが きれいだな
 C ha^rci^lbe^rsa^Nw^a koto^ba kire^l.^rna^l:
 八兵衛さんは ことばが きれいだ
 A ano^l: hu^rcu^l.^rno sju^rto sjabe^rte^lmo
 あのう ふつうの 人と しゃべっても
 C u^N sjabe^lrugtemo^rna^l
 うん しゃべるといってもね
 A ^rdo^l.sitesura^r
 どうしてだらう
 C ^rna^Nsjo^l ki^rre:na^rna^l: anosita^l: , ja^rpa^lri ju^rwe^lno
 とにかく きれいだな あの人は やっぱり 上の
 sju^rto nanisiruga^l, jo^rlesju^lga de^l, de^rdiriga^l
 人と 何するのが 良い階級の人が 出入りが
 hagesi^l:monDade na^Nzu^lra^l,
 はげしいので 何だらう
 A ^rho^lda^lga ko^l:ni: o^rkasi^l:qda^rna^l: , u^rra^lga ci^lto
 だけど 幸児 おかしいな 俺などが 少し
 koto^bbademo kaste^r cukaauto^l, o^rkasi^l:qdana^l: ano:
 とばでも 変えて 使うと おかしいんだな あのう
 ki^rkusi^lto^r mo^l:
 聞く人も
 C u^N ho^l:da^ljo^l
 うん そりだよ
 A a^Nnana^l ano^l, da^likuga a^rna^l, sono^rme^l:koto^l,
 あんな あのう 大工が あんな その 上品なこと,
 me^l:ko^rtobamadeqdemona^ridaga ko^l, i^rcumo^l
 上品なことばと吃いかなくても こう いつも
 cukaute^lno^l:jo^l:na^l koto^l cukauto^lna^l: omowa^l, o^rkasiku^l
 使ってないような ことを 使うとな 思わ おかしく

omowa^lrerugda^rna^l, o^rmo^limo^l siru^rra te^rseikan^l, mata^l
 思われるんだな 思いも するだらう たしかに また
 o^rmowareso^l:na^l kiga^lsirumoNde^l si^rleno^l:qda^l, o^rmo^limo^l
 思われそりな 気がするので 使うことができないのだ 思いも
 siruda^lna^l mata^l: namaiki^rni^l, cukaqtakoto^lmo^l
 するんだよな また なまいきに 使ったことも
 na^rijo^l:na^l koto^ba^l: cukaauto^l
 ないような ことばを 使うと
 C wa^rsin^l cukaqe^lmo^l korega^l be^rqcjabecaju^l
 私が 使っても これが けなす
 A o^rtakuno^l mocio^l to^rqta^l, da^ritai^l niteajo^l:na^l
 お宅の 司を (不 明) 大体 似たような
 koto^bzura^l koko^lmo^l
 ことばだらう ことも (山口に向けて)
 Y do^rko^lno^l, do^rkoga^l
 どこの? どが?
 A ko^rkono^l, u^rra^l, u^rra^l, o^rre^lno^l koto^bsa^l
 こここの 俺達 俺の ことばさ
 Y ^rso^l:so^l:
 そうそう
 A ni^rhe^lura^l
 似てるだらう
 Y ko^rnoheNno^l koto^bda^lne^l
 この辺の ことばがね
 A omo^rdagasa^lano^l, araino^l ho^l:to^l, iqsjoguraizura^l
 思うんだがさ あのう 新宿の 万と 一緒にぐらいたり
 Y ni^rtora^lM^lne^l
 似てないね
 A ci^rgau^l:
 違うか

B 「soida¹gte, 「soida¹gte omae, 「ki¹mino jama¹gucisa-

Nno ju:koto¹mo ho:nani
いうことも そんなに

C 「ko:ju¹:sju:wa ja:

Y na¹「to:juqte¹mo ja:pri si¹zo:ka¹kaNdamo¹Nde
何といっても やっぱり 静岡県だから

A 「kire¹:nja: na¹izjanai¹ka, omaeno kotoba¹daq¹te(笑い)
きれいじゃ ないじゃないか お前(山口)のことばだって

i¹hosisio bucu¹nja: i¹nosisio bu¹cutookino, ano
いのしを 打つには いのしを 打つときの あの

ko:sita¹qke a:sita¹qkeqcu: jacuno, 「sorjo:, ano
こうしたっけ あゝしたっけっていう やつの それを あの

「hanasi¹wo, no, kaqko: o mi:nagara ki:te¹iruto,
話せ, の, 怪好を 見ながら 聞いていると

「te¹:pudake ki:te¹qatzja: 「uN¹to cigaude¹na:
テーブだけ 聞いたのでは うんと もうからな

tasikani, 「orja:¹ naDaqko¹jo konada, 「sigoton
たしかに 俺は 何だっけよ このあいだ 仕事に

iqta¹qkega ore neruto i¹biki¹o kakudana¹jo,
行ったけど オレ 寝ると いびきを かくんだよ。

so:sitatokoroga a¹sitan¹a¹sa
そうしたところが あしたの朝

C do:mo ibikjo:「wa kakudana¹:
どうも いびきを かくんだな

A 「da¹reg¹a
誰が

C 「zieu¹ni:
実兄(実姉さん——の意)

A 「i¹cu ka¹itak¹ke
いつ かいただっけ

C ano「ja¹: teNrikjo:e iqatakini ibikjo: ka¹itamoqdaq-
あのね 天理教へ 行ったときに いびきを かいたの

de otaniba¹:ga, 「a:¹ jakamesi¹: konozinzi¹:
で おたに婆が あゝ やかましい この娘

ibiki¹baqka kakja¹:garu¹nannte korede hiq¹pasaqde
いびきばかり かきやがるなんて これで 汗んで

kurora¹:naNte, 「ssNakuba¹samiga arudacke¹:de,
やうりなんて 洗濯はさみが あたので

A 「a¹: 「so:ju:imi¹no koto¹: ju:, qteju:nja: ja:pri-
あゝ そういう意味の ことを いう っていには やっぱり

ri 「saka¹nacurino hanasjo: sirunara sa¹ka¹nacuri no
魚釣りの 話を するなら 魚釣りの

ano,
あの

Y 「so¹:so¹:so¹:
そぞろ

A hu¹ze:ga a¹ruwakeda¹na: hanasjo: sirusito¹nja: ,
風情が あるわけだな 話を する人には,

sorede ha^{sal}muqte iwasitadaqkega, so^{seita}ra
それで 独ひって 云った(不鮮明) そしたら

u^Nte, sora^lga wa^{ka}qta^{ja}:ni jametamo^{Na}de,
うらんて それが わかったように やめたので

zinzi^l: wa^{ka}takasubu^l: ja^{meta}:naNte juqteite
爺 わかったのか(不鮮明) やめたなんて 云つていて

A 「so^ldakkega 「so^lregae okasi^l:dajo 「ko^lnaidana^l:」
だけど それが おかしいんだよ このあいだな

「maci^l: sigoton iqtena^l: , ho^{site} 「a^lsamesjo^l:」
町へ 仕事に 行ったな そして 朝服を

daikus^N mesjo^l: kuqte kurjo:ja^l:qte ju^{mo}Na
大工さん めしを 食って くねって いたので

mesjo^l:site, 「so^lsitakoroga, 「na^Mdaka kono
底をくって そうしたところが 何だか この

ci^{kuo}「Nkiomitanamonoga curuite ko: a^lruda^{ze}
音楽みたいなものが 用して こう あるんだが,

so^{site}, so^lsitakoroga, a^{re}: ima^lni hazimaqte
そうして そうしたところが あれ 今に 始まって

kuruzo^lqte, 「ko^{ju}:da^l:jo, so^lsitakoroga.
くるぞって こういうんだよ そうしたところが

u^Ntu^Nte ibiki^lo, kakidaitaqda^l:ja, na^Nde
うらんうらんて いびきを かきだしたんだ 何だ

tomogtarana^l: , asokono wa^{ka}isuu:ga^{na}: , a^Nmari^l
と思ったらな あそこの 若い がな あんまり

ibiki^lo kakumonde^l:na: si^{tono} are:^lna: te^l:punona:
いびきを かくのでな 入の あれへな テープのな

naNdaka 「do^ldaqasiruto 「ha^lirudaq^{te}「na^l: , so^{re}^l
何だか どうかすると 入るんだってな それを

ho^{re} oreno makura^lmoto^l 「wo^ltarasi:da^l:i, 「soreo
それ 俺の 枕もとへ 聞いたらしじんだ それを

ore mesjo^l: kuqteirutoki^lni, o^{reno} i^{bikio}na^l:
おれ 飯を 食っているときに 俺の いびきをな

so^lredeite, naNdaka, ne^{gto}:mo juqtarisitao^[d]
それでいて 何だか 言ふも 云つたりしたのを

zeNb^u te^l:pue iretaq^{te}sa, 「ho^{sitei}「tena^l: orja:
ぜんぶ テープへ 入れた。てさ そうしててな おれは

wa^{ra}「wartackega^lna, 「hoi^ldakkega soida^lde ano:,
笑われたけどな それだけど それでいて あのう

「si^lrano:jo^l:ni^l hore^lna^l: , ano de^lkirudamoNa^l
笑らぬよう それ あの できるのだから

so^{ju}:hu^l:nu me^{ndemo} joida^lna^l: tomoqte ima^l
そういうふうな 作展でも 良いんだがな と思って 今

jama^lguqcaNni so^liqtaqkega jaqpari^l i^lma, jama^lguq-
山口さんに そういったんだけど やっぱり 今 山口

canNi kike^lba jaq^{pa}si seremo^l i^lmaju:to^l:ri, kao:
さんに 聞けば やっぱり それも 今いう通り 顔を

mi^lnagara hanasjo: kiku^lqteju^l: , juwanja i^lmiga-
みながら 話を 聞くっていう いわなければ 意味が

「na^l: , wakarano^l:demo are^ldade
ね 分らないのでも あれだから

B 「hi^lnatano saku^ltaqcano hanasi^lwa, zeNzeN ko^ltoba^l-
日向の 作展の 話は ぜんぜん ことば

nja naq^{cja} iniqde, na^lrana^likamo sirenai^lna^l
には なって いないから、 ならぬかも 知れないな

A ko^lto^lbaNna^lqte ino^lqte, ko^lto^lbaNnqte iru^lsa
ことばになって いないって ことばになって いるさ

jaqpari^lano:
やっぱり あの

B sono: cu^lmaranai sono arena^lNa^lze, si^lto^lnokoto:
その つまらない その あれなんだぜ 人のことを

i¹ko²zikadano³
イコジカだの

A i¹ko²sika
イコジカ

B danoqte¹sa. sag²pa³ri sono hu¹cu²:no arede,
(不 明) だのってさ さっぽり その ふつうの あれで、
imisi¹na²ikoto³: ju:da¹zo² anoseito¹wa, zeN²zeN³
意味しないことを いうんだぞ あのは せんせん

A so¹ju:²koto³ba¹ hasama²ruq³da¹na²:
そういうことばが 繋まるんだな

B sakutacuqteju: sitonouju:¹wa, ho¹tondo² so¹ju:²ko³to¹:
作展っていう 人のいうことは ほとんど そういうことを
ju:¹dade, nanisiro, wa¹kara²naiko³to¹: ju:wa¹na
いふんだから なにしろ わからないことを いうよな

C se¹nakan² magaqtaeito³: i¹ko²zikaqte ju:da
背中の 曲った人を イコジカって いうのだ

B sorja: ju:qa¹na²
それは いうね

A i¹ko²zikaqte ju:mo¹no: siqt²ru kimja³:
イコジカって いうものを 知ってるか 君は

Y sira¹na²
知らない

A r¹za: hanasini narano²:wa³ jaqpa¹ri
では 話に ならないな やっぱり

B sorja: so:daga¹sa, ma¹gaqte ino²:qtemo sito¹nokoto:
それは そりだけど 曲って いなくて 人のことを

meta, i¹ko²zikadano, r¹sjo² Ngaridano iroiro so:ju:¹-
むやみに イコジカだの レンガリだの いろいろ そういう

ko¹to: ju:¹qdaj², sono¹ sakutacu²qte
ことを いうよな その 作展って

A r¹o: ho²:da ejo¹NgamanaNte ju:¹na²: sito¹na²: ,
れ そだ えじょ ネガマナント じゅうな じゅうな 人々な
r¹sjo² Ngamedana¹Nte
レシソハメナント

B so¹no, ku²sa³jaro:dano, a¹ota²giqeqjuqtari
その クサヤローダの アオタギッタって云ったり

C a¹otagizurraqdanq²eja³: ju:de wa¹kara²no³da hu¹to:
アオタギッタラだのって いうから わからないよ 本当に

B so¹no² heNnakoto³: ju:qa¹jo, sakutacu²qte ju:sito:
そんな へんなことを いふんだよ 作展って いう人
wa, ko¹ hu²cu:ni, to:¹rujo:nakotowa, taN¹to²
は こり ふつうに 通るよなことは 汽山

juwana¹f² so
いわないぞ

Y sono sa¹ku²tacuqte ju:na¹do:ju:, zi¹wa²do:ju:
その 作展って いふのは どういう 字は どういう
zi¹o ka²kudai³ no
字を 喜ぶんだろう

A sa¹kutacu²qtesa, ju:sito¹mo iqtai macigatuiruda-
作展ってさ いう人も いたい まちがっているんだ
na:, sa¹kutacu²naante ju:sitoqqa¹na idaga
な 作展なんて いふ人ではないのだが

jaqpari, sa¹ku²mono: tacu¹qtaju sito¹damoNaina²:
やっぱり 作右衛門の 戻ってい 人だからな

sakus¹mon
作右衛門

Y u¹ciga² sakue¹moNde²: na¹ma²ga
裏が 作右衛門で 名前が

A tacu¹io
辰男

B ta[「]cuo[」]:
辰男

A ta[「]cuo[」]:qdaja:
タツオーだよ

B soreqdo[,] sorja[:], sa[「]to:tacu[」]oqteju:da[」]jo
それで それは 佐藤辰男っていうんだよ

Y hoNto:[「]wa
本当は

B hoNto:[「]wa
本当は

B sorekara so[「]re[」], sa[「]to:tacuo[」]:naNtō ju:sita: 「na[」]-
それから それを 佐藤辰男なんて いり人は ない
idajo[,] sa[「]kutacu[」] sakutacu[」]qte ju:damoNda[」]de
のだよ 作飯 作飯って いうんだから

A 「hoidaga arja[,] 「do:[「]kaNtacuto[」]mo juwa:[」]
だけど あれは ドーカン辰とも いうよ

B uN 「do:[「]kaNtacutomo ju:qda[「]na[」]:
うん ドーカン辰とも いうんだな

Y do:kaNtacu[「]
ドーカン辰

C ano: 「ie:[「]no ano wakata[」]ga, 「do:kaNbuci[」]qte
あの 家の あの 傍が ドーカン漁って

ju:daqkeda[「]na[」]:
いったからね

A a: 「do:kaNbuci[」]qteju: . ano, kawano hu[「]c[」]ga
あ ドーカン漁っていう あの 川の 湖が

arumo[「]Ndade , kawarani hu[「]ciga arumo[」]Ndade ,
あるので 川原に 湖が あるので

「sokoni se[「]bani irumoNde: 「do:[「]kaNtacuqte ju:da
そこに そばに いるので ドーカン漁って いうんだ

V so[「]nosit[」]a: , i[「]kucuguraino sito[「]daine[」]:
その人 いくつくらいの 人だろう

A 「ko:n:i:ra[」]to iq:jqoda[「]na
孝兄弟と 一緒に

B do[「]kiju:no.....dagke[「]na[」]:
同級の (不 明) だったな

Y so[「]rja[,] so[「]rekoso kono osisaNg[,] igte hanasjo[「];
それは それこそ この オジさんが 行って 話を
sitekureruto e[「]:daN[「]ne[」]:
してくれると 良いんですがね

B so[「]rja[,] omosiro[「]ika sonosito[「]ga
それは おもしろいか その人が

Y o[「]mosiro[「]zja: na[「]ika[「]ne[」]:
おもしろそうでは ないか

B omosiro[「]nja: omosiro[「]ida , tonikaku 「o:ka[「]:ici[」]baNate
おもしろいには おもしろいよ とにかく 大川一番と

- ju:sito[「]qda:
いうんだ

Y so[「]nosit[」]ga aratama[「]ruqte ju:sito[「]ka[「]ne
その人が 改たまるって いう人かな

B a[「]ratamarana[「]ida[」]o
改たまらないよ

Y na[「]ruhodo
なるほど

B ko[「]to[「]bananTejuja 「zeNzeN 「kaeena[「]ida
ことばなどといったら せんぜん かえることができないのだ

Y so[「]nosit[」]ga , so[「]nosit[」]no tokoroene[「]: , iq[「]pe[」]
その人が その人の ところへ 一度

hanasi[「]o sitekureru[「]to[」] arigata[「]idakedo[「]ne
話を てくれると ありがたいんですけどね

B sjabe⁷rupo so:ro:nosja⁷nida soregamata
しゃべるの (中途不明) そうろう ではないのだ それがまた

A arede mi⁷cuzi⁷:ramo koto⁷ba: kaeru⁷ka⁷ja:
あれで 光るらも ことはを かえるかしら

B kaenai⁷
かえることができない

C kaenai⁷na
かえないな

A ima⁷no konogi: ⁷sejina⁷ , konosito⁷ho oja⁷dagasa:
今の との娘さんな この人の 親だがさ

B kaenai⁷jo
かえないよ

A aremo , ozi⁷:ejaNdaga konosito⁷no ⁷bi⁷ , bi⁷:ruo
あれも、 爰じいちやんだが この人の(以下、子供に) 鮮ビールを

no⁷Nja , joq⁷para⁷ze , ko⁷wai⁷so⁷ omote⁷: de⁷ruto
飲んだ、 ジョウパラ⁷ゼ、 コウワイ⁷ソ⁷ 表へ 出ると

ko⁷rokerude
からぶから

B bi⁷:ruo no⁷mudae⁷ bi⁷:ruo akio⁷qte , Ju:bemo
ビールを 飲むんだから ビールを あきょって。 作夜も

no⁷Nasada . i⁷kurademo no⁷mu
飲んだよ。 いくらでも 飲む

C no⁷mudae⁷ja , cu⁷ldara⁷ cu⁷ldara⁷ oj⁷qto cu⁷ldade
(不 明) 飲むんだよ。 (次の云い筋) ついだら 少し ついだから

waru⁷iqte cu⁷nekozi⁷steru , iq⁷pai⁷ euganja⁷:
いけないって すねる いっぽい つかねば

B iq⁷pai⁷ eugano⁷qte okodtejaga⁷ru
いっぽい つながって 感ってやがる

子供 iq⁷paino⁷: do⁷koni aru:
いっぽいのは どこに ある:

B
(不 明)

iq⁷paino⁷: do⁷koni aru⁷ija:
いっぽいのだ どこに あるの

A do⁷:sirukana⁷: hoizja: ko⁷Nja ano: kimja: sono:
どうするかな それでは 今夜 あのう 君は その

sa⁷ka⁷nokami: iqt⁷e jo⁷:o sirunara sa⁷kanokamida
板ノ上へ 行って 用を するなら 板ノ上で

jaqte⁷keja⁷:
やって行けよ

Y so⁷:ne⁷: sa⁷ka⁷nokamida
そうですね 板ノ上で

A jaqt⁷late⁷ea⁷: keg⁷koku , so:site , mata ,
やって行って 結局 そうして また

arata⁷ne⁷ te kurubo: ni⁷ sjo⁷:ja:
改めて くるように しない

Y da⁷kedo ha⁷cigacudo:ka⁷ga
だけど 八月八日が

A u⁷N jo:kaga bo , ano: , ho:da⁷ga so⁷rewa naNda⁷:
うん 八月が ぬ、 あのう、 だけど それは 何だなあ

ano:
あのう

C bo⁷nga ka⁷narude he:qzja⁷: , ma:je⁷:torukamo
盆が 重なるから それでは 前に日取りをするかも

sire⁷no: hacigacuboNra , tana: , ko:sinsa⁷ni
知れない 八月盆なら 痘を 货申請に

areqjanai tana: huta:cu kosiraerutokaqcja:
あれじゃない 痘を 上た 作るとかって

hacigau⁷bo⁷ma⁷e: toqzja: siru⁷zja⁷nai
八月盆前に (日取りを) とって するんじゃない?

A 「ko:siruna⁷」ra taihen⁷demo, do⁷:nisizuga jo⁷ikana⁷:
こうするなら たいへんでも どういふ間にするのか 良いかな

kegikoku, u⁷ragaho⁷:wa cju⁷:be⁷:dade da⁷me dade.
船局 他の方々 忠兵衛だから ためだから

ha⁷cibe⁷:tadani⁷qdemo, dame⁷ tano⁷Ndeqcu:nomo
八兵衛忠(タダ)にでも、 だめ 新んでっていうのも

mazu⁷ ide da⁷me da⁷na:
まづいから ためだな

C mo⁷rokosa:..... hicigacuno ku⁷reni sirugua⁷ra
旅子歌 七月の 末に するんだろう

sore⁷ wa
それは

A ta⁷nomiqko⁷:cju: ko⁷ta: dekino⁷:da⁷de, jo⁷i qda⁷na:
頼まないでという ことは できないのだから、 良いんだな

ano: Jaqpa ri ima: konosi⁷to ja⁷ma gucisaNga
あのう やっぱり 今 この人 山口さんが

juito⁷: zi⁷a rute⁷:do hana⁷ite kuru⁷to ko: ano:,
いう通り あるいど 話して くると こう あのう

naNda : ne cu⁷ga deteku⁷ruto be⁷cuni⁷ ano:,
なんだ 熟が 出てくると 別に あの

ja⁷ma gucisaNga iruqde⁷toka, ma ci nositoga iruqde -
山口さんが いるからとか、 司の人が いるから

tokaqteju:de na ku⁷na⁷ te ku⁷rude ne: ano: ha:
とかでいいので なくって くるからな あのう もう

hanasikoNdeku⁷ruto soiade, e⁷: qda⁷na:
話こんでくると それだから 良いんだな

(3)

A naNdana⁷:, so:siru⁷da⁷na: wa⁷rui⁷qkena⁷: korja
何だな そうするんだ 悪かったな こりゃ

ko:ni⁷:, sewa⁷: kake⁷te
幸兄 世話を かけて

B mi cuo⁷ga naNsjo⁷ omosiro⁷iga na⁷:, jaqpa⁷ micoowa
光耀が とにかく もろいがな やっぱり 光耀は

dameda⁷na:
だめだな

A ke⁷:kaisiru⁷ka
警戒するか

B u⁷citina jacu⁷dade arja
内気な やつだから あれは

A a⁷rja: so⁷iqte, ba⁷: kani⁷ ke⁷:kaino cujo ijo:na:
あれは そういうて、 ばに け: 嘉乃の 強いような

jaro⁷:dade, da⁷me qda⁷ annamona, kino⁷ ko cui⁷i
野郎だから だめだ あんな者は 気の 小さい

jaro⁷:de na:
野郎でな

B u N, ki wa ko cui jo
うん 気は 小さいよ

A do⁷: mo arewa⁷ kju⁷:kucuqd⁷ da⁷me na joro⁷da
どうも あれは 勇闘で だめな 野郎だ

B m zu⁷ ki wa koci⁷ jo⁷ mico wa, kocu inja:
まず 気は 小さいよ 光耀は、 小さいことは

Y 「do¹:mo ozisan su¹imase¹n desita¹ne¹ hoNtoni
どもおじさんすみませんでしたね本当に

B ko¹siNaNno tokini do¹koga to¹jadaka¹na¹:
度申附の時にどこがトーやだらうかな

A simo¹de¹ka¹: mazu ha¹cibe¹:na¹ra¹ tanomare¹ru^{ga}.
シモでかまずハチメテナラタノマレルガ.

oreno tanomuNja¹: . ojube¹daate¹mo ta¹nomareno:-
おれの頼むには、 忠兵衛だつて頼めない

kota:naiga hi¹ci¹zanno¹ga tanomijoiga zi¹roma-
ことはないが、 七左右衛門の方が頼みよいが、 次郎正

saja¹, cju¹be¹dano goro¹:naNte ju¹jo¹ri¹ka,
サヤ、忠兵衛だの五郎などと いうよ

hi¹ci¹saka
七左右衛門かな

B kane¹icira¹: dokono kumiqzura¹
カネイチ達は どこの組だろう

A dokono kumiqdaka¹sa arega micu¹zi:n i¹ma ki:te-
どこの組かなあれが、 光景に今 きて

mi¹ruto j¹phi¹daqkega
みると よかったが

B na¹ni ki:temi ruto e¹q¹ke¹na¹:
なに(それ)一の口きいてみると よかったな

A a¹re o¹zu¹gura hoigda¹ga, r¹ra¹ go¹rokuniNmo¹
あれ多勢だろうだけ、 あれは 五六人も

hi¹cihacini¹Nmo, zju¹niNmo¹ a¹rura
七八人十人も あるだろう

B o¹kaN o¹ze¹qda¹ze arja
だいぶ 多勢だぜ あれは

A ko¹ni:ran¹ kumja¹: ni¹sanNiNzu¹ra
幸見達の組は 二、三人だろう

B i¹ma wa hici¹ninda¹jo
今(不<明)は 七人だよ

A soizja¹: mata hueta¹qdana¹: mataqte ipen¹ ja meta-
それでは また 増えたんだな 又って 一べん やめた
sito¹ga aqtaqke¹na¹: , soNnakota¹: na¹ika
人が あつたけな そんなことは ないか

B jamitakgega
やめたっけが

A huq¹kausita¹ka mata
復活したか また

B so¹rja¹: ano¹: as asokoga¹ kona¹ idanqeda¹jo
それは あの あそが 来なかつたよ

A se¹:si¹
セシ(人名)

B se¹siwa¹ hajaida¹ga na¹: , ho¹kano sju¹:wa mi¹na
セーシは 早かつたな 他の 痴は みな

roku¹bunda¹
ロクブ(不明)だ

A dokoqkara hacibe¹ iku¹ja , maenja¹: doko¹daqke¹
どこから 八兵衛へ 行くの、 前には どこだった?

B se¹:ni:
セー兄

A a¹: se¹ni:kara aqci¹ o kita
あゝ セー兄から あちを(まわって)きた

B soosite koqci: ku¹qto¹ ma:qte ku¹ruwake¹ qda¹:
そして こちへ くると まわって くるわけだ

soide¹ mo o¹mosiroi¹ wa¹ hi nataqda¹na
それでも おもしろいのは 日向だな

A to¹ ho¹qda¹ , hoide¹ mo u¹ra¹ ga¹ kumi¹ mo¹ je:
(不<明)と そうた、 それで おれ達の組も 良い

su^{ku}^{na} reNoju:ga
 すきな 連中が
 通中が

C iciⁿⁱ:wa omosiroⁱra
 市兄は おもしろいだらう

A o^{ku} meNnasini sjabe^{qte} kureru
 見面なしで しゃべって くれる

B hoiqdaga hi^f natano kiri^{ku} i^[6] kumio a^f cume te
 だけど 日向の キリックイ 植毛 あつめて

mjo[:] masu omosiroⁱ ini
 みよ ます おもしろいから

C arja: o^fmosiroka^fna, f^eige^fziramo omosiroⁱidaga
 あれは おもしろいだらう シゲジなども おもしろいのだが

B do:, do^f:kaNtacudano sige^fzidano cju^f:be:da^fno
 ドーカン派だの シゲジだの 忠兵衛だの

A mu^frazimo ho^f:ka
 村治も そうか

B murazidano, ma^fsu do^f:kaNtacu, ma^f taku omosiro⁻
 村治だの ます ドーカン派 全く おもしろいん

ini ma^fzu a^fNnana kumi^fwa nai^fna
 だから ます あんな 組は ないね

A hoqdaga arewa so^fNojo:racimo hajteru zura sore:
 だけど あれは 村長達も 入ってるだらう それへ

B so^fNojo:wa^f do^f:dakan^f : , ha^fijteruka^f mo sirenoga
 村長は どうだらう 入ってるかも しれないが

A a^fnna^f na hitoga ha^fijteruto wariai ei^fzukan^f
 みんな 人が 入ってると わりあり 静かに

naruqua^fna:
 なるんだな

B daga^f so^fNojo:wa cju^f:kide i^fcuni nate rufade
 だが 村長は 中風で ずっと 痰てるから

jo^fidaga f^eso^f nomata, musu^fkoga omosiroⁱida:ja
 良いが そのまた 息子が おもしろいのだ

A e^f: , e^f:ga
 エー 、 エーが

B e^f:kiciga
 エーキチが

C e^f:kiciwa omosiroⁱeqeu^fzo
 エーキチは おもしろいっていそ

B u^fN ma^ftaku omosiroⁱida
 うん まったく おもしろいよ

A daNNa: kidoqo^f: ino:qda
 だんなを 気取っては いいのだが

B a: daNNa: kidoru, zeNzeN na^fiwa, ko^ftoba^fo
 あゝ だんなを 気取るなど、 ぜんぜん ないよ ことばを

nao^fite cukaieno^fis^fna zeNzeN
 直して 使うことができないしね ぜんぜん

A a^frja: doko^fi iqtaq^fke gaqko:wa
 あれは どこへ 行った? 学校は

B gaq^fko:wa sjo^f:ga qko: , sjo^f:gjo^f:da arja:
 学校は ショー学校 面来だ あれは

A sjo^f:gjo:
 商業(高校)

B daga, ko^fto^fba: nao^fite cukausito^fza:naisi ma^fzu
 だが ことばを 直して 使う人ではないし ます

korja: , zu^fq^fto^f sjabe^fqteru^fna, do^f:kaNtacurato
 これは ずうっと しゃべってるな ドーカン派と

joia^fitedamo^fno, seosite zi^fte Nsjase:qdano^fna:
 良い相手だもの そして 自転車セー(人名)だのな

o^fmosiroⁱida^fzo sorja maqta^fku, a^fnokumi^fga
 おもしろいよ それは まったく あの組が

to⁷nikaku iciba⁷ no ojaka⁷ taeda⁷ na⁷: hi⁷nata⁷ zja⁷:
 とにかく 一番の 親方だな 日向では
 wa riai kocci⁷: ku⁷ruqteju:to, ano:, koto⁷ba⁷ ga
 わりあり こっちむ 来るというと あのう ことばが
 jo⁷ida⁷ zo, o⁷bo⁷:noho:e kurato
 良いんだよ オボーの方へ くると
 A ko⁷toba⁷: kaeruka si⁷Npe:, kjo⁷kucjo:w⁷a
 ことはを かえるか 新平 局長 局長は
 juitaiko⁷ to: ju⁷ra arja⁷: , koto⁷ba⁷ demo kaeno⁷:ra
 云いたいことを 云うだろう あれは ことばでも 変えないと
 aria: aria:
 あれは あれは
 B kae⁷na i, ki⁷Npe:dano, a⁷sokora nosju:wa hi⁷kaku-
 変えない 金平だの あそこの衆は 比較的
 te⁷ki⁷ hoida⁷ ga ano: aNnana do⁷kaNnomitai⁷ na
 だけど あのう あんな ドーカン辰みたいな
 koto:ju: sito⁷ wa nai⁷ na:
 ことをいう 人は ないな
 C da⁷nnabu⁷ qteruda⁷: ja
 だんなぶってるんだ
 B hi⁷nata⁷ wa naNejo
 日向は なにしら
 A go⁷he:ta⁷ ka
 ゴヘータ(家号)か
 B u⁷N, kiri⁷gkui kumida⁷ jo arja⁷ kumi⁷ qde jarude-
 うん キリッキイ 組だよ あれは 組で やるから
 na⁷: ho⁷rja: asoka:
 な それは あそこは
 A a ho⁷ka, u⁷N jphi⁷ wa u⁷ra Nho:mitaini, ka⁷miju-
 あ そうか うん 良いよ 俺の方みたいに 上湯

zima o⁷:kumidaga, u⁷ra Nho:wa tobi⁷ tobidade
 大きい組だが 俺の方は とびとびだから
 toq⁷temo kanaNze cju⁷:be:ni hicil za, ziromasa,
 とても 敵わんよ 忠兵衛に 七左右衛門 次郎正
 soide⁷ ei⁷ratakaminoru, dagkegana⁷:
 それで シラタカミノル だったかな
 C wa⁷riaini to⁷bitobida⁷na:
 わりありに とびとびだな
 A soide ura gatoko
 それで 俺の所
 C huN⁷to⁷:
 本當
 A a⁷rewa⁷na ko⁷(7)do:cuptena⁷: , ko⁷do⁷ qte orja: ci:
 あれはな 古堂っていって コドーて 俺は 小さ
 sa⁷i do⁷:dakatomotara ho⁷izjanaida⁷ jo, hu⁷ru⁷ i
 堂かと思ったら そうじゃないのだ 古い
 do⁷sa, i⁷nisiene⁷ ko⁷sa
 堂さ いにしえの 「古」さ
 C a:so⁷ka
 あ そうか
 A hoida⁷mon dai ni⁷za datokasa⁷: , u⁷ra N hore koIna⁷
 それだから 仁左だとさ 俺が それ こん
 na⁷ano: kataciN nagtaga ni⁷za mo hu⁷ru⁷ idaqkeqcura-
 な あのう 形に なったが 仁左も 古かったのだろう
 de i⁷cirju⁷ daqkeqcurado ura⁷ kakka⁷:no arja⁷:
 から 一派(の財産家)だったらから 俺の 女房の あれは
 nizz⁷datoka hi⁷ci⁷zadatoka cju⁷:be:datokasa
 仁左だとか 七左だとか 忠兵衛だとさ
 si⁷make:sa, to⁷tsasan, sosite ziro⁷: , inoue
 シマケーサ 丽太さん そして 次郎 井上

u'mekici, sosite 'hagjo:mo' huruifra' korja,
 梅吉 そして ハギーも 古いだらう こりゃ
 hagjo':tora, 'mo:a'to darezura 'm'a daato itahazu'ja
 ハギー→ヲ もうあと 誰だらう まだあと いたはずだが
 B kaNbo':wa
 勇兵衛は?
 A 'kaNbo':wa ho:qzjana'i, 'hate'na 'kodo:kodo:'qteju:-
 勇兵衛は そりじゃない はてな 古堂古堂っていう
 de 'ei:salido:no kodo:datomo'qta'ra, 'a'no niNZu:mo
 から 小さい室の コドーだと思ったら あの 人数も
 sukuna' i si, ho:qzjana'i 'sorega, 'sima' ga nukeru,
 少ないし そりじゃない それが レマガ ぬける
 hagjo':ga nukeru, 'ino'uemeikiciga nukeru so:ka'ga:-
 ハギーが ぬける 井上梅吉が ぬける 創価学
 qkai naNkoNo kaNke:de'na': sosite hagjo':mo'
 会や 何かの 関係でな そして ハギーも
 so:ka'ga'qkaino kaNke:de'na': nukete'sa, 'sosite nukete
 創価学会の 関係で ぬけてさ そして ぬけて
 nuke'te, taqa:, goni'Nkirini naqcjqat'a, 'oreto
 ぬけて たった 五人さりに なっちゃった 俺と
 cju':be:to 'hici
 忠兵衛と 七
 C 'hagjo':mo so:kagaqkai siteiru'ka'....
 ハギーも 創価学会を しているか
 A 'ho:dahoe'da:, arja:'ja: so:kaga'qkai ha:iqteruda
 そうだそうだ あれはね 創価学会 入ってるよ
 korja:ja, arja: 'i:to: oremo, 'i:sja'o 'kete'mi'-
 これねえ あれは イトー 俺も 医者を 代えてみ
 ruto joiqteju:komoto aruqde, 'i:to: 'ka misaNo
 ると 良いっていうことも あるから イトー 間さまを

hiqka'e'te mi'ta:cug'te, 'o'giNne':ga ju:daacjo':wa,
 代えて みたといって おぎんねさん いうんだそうだ。
 'teNrirkjo':dakeda anja:
 天理教だったから あいは
 C 'te Nrirkjo:dakeda'de'sa':
 天理教だったから
 A 'ka misaNo hiqka'temita: jo:iq'na':cugate cugka':
 神様を 代えてみた 良いなって いったよ
 giNne':ga, 'soide so:kaga'qkaini kaeta'qda:, soi-
 錦師 それで 創価学会に 代えたのだ だけ
 daga 'so rekara 'jo:iwa:cugakja': giNne':wa
 だから それから ジョイワ:クガク が いいよって云った 锦師は
 C ho'ka:
 そりか
 A hiqka'etemi'taqte, i'sjamo ka'eruto jo:qeqi:kotoga
 代えてみたって 聖者も 代えると 良いっていうことが
 aruqde'na, aNmari'hikicuzu'ki u'Nga waru'ide,
 あるからな あんまり ひきづき うんが 悪いから
 'ka misaN hiqka'etemi'taqte, sositara 'jo:iq:naq-
 神様 代えてみたって そしたら ジョイジョナ
 cugka':, 'rjo':he:mo kagka'mo morausis'na, geNki-
 て云った 良平も 女房も 買うしな 元気
 ni'mo naqtasi, 'u'Nto'na aremo u'Nga waruikkedai,
 にも なったし ウント あれも うんとな あれも うんが 悪かったのだ
 hiqka'ete mitaqeo': ka'misaNo, sositara 'jo:iq:-
 代えて みたそうだ 神様を そしたら ジョイジョ
 na'qte, so'rja 'u'Nto a'soko'i ikuqeqi:de'na o'Nnas-
 だって セリヤ うんと あそこへ 行くっていうからな 女達
 ju:ga o'renja: iwano':qko, da're so':kagaqkaina
 が 俺には いわなかつた。誰 創価学会が

asokoNtokoni , i^{no:ga}....., arja: mata hikka^e-
あそここのに いないが(不^明)、あれは また 代え

temita a^{rja}:
てみた あれは

C naⁿⁱⁿⁱ: jaqtazura ko⁷Nda
なに やったんだろう 今度は

B si^{gotono} areda
仕事の あれだ

A mo⁷tono^{sa}, mu⁷kasino ho⁷tokesaNda
もとのさ 昔の 仏さままだ

B ho⁷tokesaNdaqta^fda
仏さまだったのだ

A so⁷to⁷sju:^{no}
曹洞宗の

C so⁷ka:
そうか

A ka⁷rewa^{sa}, umeni⁷ga^{na}: , ka⁷radaga waruitoki-
おねはさ 梅兄がな 体が 悪いとき

ni⁷: so⁷kagakai istada^{de}: , sigeora^{ga}: ,
に 創価学会へ 入れたんだから、 庚男らが、

so⁷sittatokoroga, su⁷gu ei⁷qdadnake umeni:wa
そうしたところが、 すぐ 死んだんだけ 梅兄は

so⁷gitara so⁷kagakaino muko:kara kitesite ore
そうしたら 創価学会の ひとりから 来ていて 俺

so⁷isikio site^rna
罪式を してな

C u⁷N so⁷daqke^fna
うん そうだったな

A so⁷siteme kumf aisju:nimo, do⁷tokako:tokasiruto
そうして 署の表にも どうこうすると

mata kono ozi⁷:saNmitaini obacio uke⁷rugotoka^{te}
また この おしいさんみたいKC 刀を 受け るとかって

ju:dakedo og⁷ka⁷:nainaNte, so⁷kaga⁷okai og⁷ka⁷:nai-
いうんだけど 悲いなんて 創価学会 悲い

naNte cuqkoga, siqda, siqda⁷qte sora⁷ iNNeNga
なんて 云つたが、 死んだ。 死んだて それ 因縁が

a⁷rude siqdaqoju:zurade^{na}: , ko⁷kono ozi⁷:saNmitaini-
あらから 死んだっていうんだろうな こここの おじいさんみたいKC

ni o⁷ba⁷cio uke⁷ruqte^{sa}: , ju:ko⁷to : kikano⁷to,
罷を 受けるってさ いう事を 同ないと、

so⁷siteitsa, jo⁷ku ku⁷misiejuga ano, ko⁷deNo
そりついで 良く 組合の衆が あの 香典を

moqteiqte, ke⁷:kosaNga soqoi⁷noho: ikuto, soqoi⁷-
持つていって ケーコさんが そちらの方へ 行くと そっち

noho: ie⁷cja:, ke⁷:kosaNni jarusito⁷mo arja:,
の方へ 行っては ケーコさんKC やる人も あれ

so⁷ko⁷de so⁷kaga⁷qkaino u⁷kecuke⁷ga soko⁷i kite
そこで 創価学会の 受付け そこへ 来て

haiqteiru⁷ra⁷ hore, hi⁷natasju:ja, mi⁷tocjaNiga
入っているだろう それ 日向屋や ミトちゃんの家の人が

kiteite, de, sonosju⁷:ni jaqtakotonja na⁷rano⁷:qdakamo sireno:-
きていて で その間に やつたっても タイコさん

Nni ko⁷deN jaqtakotonja na⁷rano⁷:qdakamo sireno:-
KC 番号 番号 ならないのかも しれない

cu⁷te, na⁷gaa⁷ no ho⁷i igte orja ke⁷:kosaNni
といへて 流し(台所)の 方へ 行って 俺は ケーコさんKC

jaqte ki⁷ta⁷naNteju:sju:mo eraku aq⁷ke⁷na
やつたなんていふも 残山 あつたね

C u⁷N so⁷daqke^fna:
うん そうだったな

A 「so³ iqtakse⁷ze:」, 「so³ kagaqkaidae」 創価学会で
そいつたつげ せんぶ 集めて

「mo³ qtepas¹ rudeaqjo: naNcuote⁷na¹:」, 「so³ regzja:」
持っていへんたせうだ などといへてね それで

「se³ sjuno hitonja: ka⁷ waiso:nadegcuote」
施主の 八木は 可哀想だからといって

Y do⁷koi iku⁷qte moate
どこへ 行くって? もう持つて

A 「so³ kaga qkaino⁷sa hoNbui iku⁷zura, hu⁷zino」
創価学会のさ 本部へ 行くんだろうり、 富士の

taisekiziqdaka dokodaka osame⁷ ruzura⁷na¹: arja:,
大石寺だか どこだか 納めるだろう ありや-

soide⁷ soreqzja: ano: naNNi⁷ mo narano:dade sono
それで それでは あのを 何にも ならないのだから その

se³ sjuno: arenja: narano⁷ qtzju:tokoqde, kaq⁷ tebano
あれには あるいは ならないついでここで 勝手場の

ho⁷jananikan, ke⁷ kosaNga irja: soqci: koqso⁷ri
万才にかく ケーコさんが いわば せっかへ こっそり

iqa, saqdasite kita⁷ nante ju:jo:na sitomo⁷ arujo:
行って 差し出して 来たなんて いきなり あく あるよう

nakke⁷ jo oran onnasaju:ra: so⁷sitajo⁷nakke⁷na¹:
だいたい 僕の 女は ソラしたようだつたを

so⁷ regkara anopi⁷towa so⁷kaga⁷ qkai ja⁷ metaga,
それから あの人は 創価学会 やめたが

ko⁷ siNsani⁷mo hairano⁷na¹ jametakirid⁷ de sono-
庚申納戸 人らないな やめたきりで その

mama⁷ N naqcjqat⁷na¹: soidamo Nde kono⁷da
まみに N なむじかたな それだから 来ない

Y ko⁷ siNsani ha⁷ iqtemo so⁷Nwa na⁷ idaraini⁷ne:
庚申納戸 入っても 握は ないだろうね

A so⁷ qda, so⁷ idaga o⁷ra mo⁷ ciqto o⁷ra, ni⁷ Nzu⁷o
そうだ だけど 俺は もう少し 人敵を

hos⁷ku naq ta
ほしくなった

B o⁷ mosiro⁷ iwa⁷na: hoiqdemo iroironakoto: ki⁷ tekita-
おもしろいな それで いろいろなことを きていた

jaco: minasite ejab⁷ ruqe⁷na¹: so⁷ idamo⁷ Nde
やつを 告して レバれるから それだから

a⁷ remo wa⁷ ruka⁷ nai⁷ jo, ko⁷ ju:koto⁷ ga aqtaqke⁷ qte
あれも わるくはない こういうことが あった

ju:koto⁷
いうことを

Y soide hi⁷to⁷ cu ano: ki⁷ kitaide⁷ sugane⁷: , jo⁷ ku
それで ひとつ あの 開きたいんですが

ano: i⁷ka⁷ wan⁷ ho:dewa ano: e⁷to⁷ da resoren⁷,
あのう 井川の 方では あのう えいと 蓮それ

na⁷ Nka, e⁷to⁷ si⁷cja: ika⁷ to ju⁷to⁷ kinine⁷: , ma⁷:
何か えいと しては いかなないと いう時

ta⁷to⁷ eba na⁷ku, ko⁷domonara kodomoni, na⁷kuna⁷ qte
たとえば いく, 子供なら 子供に いくなって

ju:koto⁷ ne⁷: , teju:koto⁷: na⁷iso⁷ qte ju:h⁷u⁷ni
いうことを ついでいうことを ナインって いうふり

ma⁷ : , i⁷ka⁷ wazja:
まあ 井川では

A na⁷iso⁷ qte ju:wa⁷ja⁷:
ナインって いわぬ

Y ko⁷ korahed⁷ mo ju⁷ka⁷ ne
ここへんでも いりかね

A na⁷iso, jakamasi: na⁷iso, na⁷iseqja: jaqpa⁷ ri
ナイン, やかましい ナイン, ナインとは やっぱり

o^rkuncho^o:de ju^rdaka^rja^o:
奥の方で はうのかな

C j^rka^o:no sju^rwa naiso^rgte judges , i^rse^rga^rna^o:
井川の 人は ナイソって 判った , イセガタ

naiso^rqca: r^rjoku juq^rke
ナイソって いく 云つた

B na^rkaiso^rqca: ju^rzjanaika .
ナカイソと云ふ

C na^rkase^rqtoqakte
ナカッソとかって

B r^ro^rkunosu^r:wa , na^rku^rnaqcu: o na^rkaso
奥の人は 泣くなつていうのを ナカッソ

Y r^ra^o: sorja: na^rkasun^rqca: koto^rne^o:
あゝ それは 泣かずか おつり ことだね

B r^ro^r: ku^rsurenco^r:daka na^rra^rodakaqd^r ju^rna^o, na^rkaq^r
井野か 猛尾かで 旗尾かで いうな , ナカッソ

so^rqteju:^ro , na^rkaso
ソッていらうこと , ナカッソ

A na^riso
ナイソ

B na^riso^rqca: juq^rke huNtowa ika^rwano sitoga
ナイソとは 云つた 本当は 井川の 人は

ura^rgatokoni ita^rga
他の所見 ほか

Y ko^rkorahenno tocino hito^rwa eo^rju^rko^rto juwan^rka^rne^o:
この辺の 土地の 人は そりいうこと 云ひなかね

C juwanai^rne^o: ko^rkorano sju^r:wa na^rkuna^rqca: da^o:
云わいね ところの 乗は 泣くなつて

na^rNnja ka^rmawa zu
どんなことでも

Y na^risoto ka , so^rju^rkoto ciles^ritokini kitako^rto
ナイソとか そういうこと 小さい時に 間いたこと

na^rikane.
ないかな

A do^r:mo orja: r^rdo^r: mo kono^rho^rzja ci:to juqta^rjo:
どうも 俺は どうも この地方では 小し 云つたよう

na^rna^o : ko^rno goro ka^rwaqtade^rna^o: koto^rbamo ,
だなあ このごろ 変つからな ことはも

na^riso^rja , qtejuque^rna^o: ju^rnja^o:
ナイソ って云つたな 云うことは

B ho^r: ko^rno heNzja: ju^rwana^rina^o:
ほり この辺では 云わいね

Y aq^rcjo^o : mi^rcja: i^rka^rteju^rtoki^rni , m^rso ,
あっちは みでは いかなといふ時に ソン

aq^rcjo^o : mi^rso
アッチャミソ

C so^rNnanakota^o: juwanai^rna^o:
そんなことは 云わいね

A mi^rNna^rqte ju^rna^o:
ミンナって いなあ

Y ho^rNka^rna^o:
ホンカ なあ

A na^riso , na^ri^rso^rna^o: , u^rN
ナイソ ナイソナーラン

Y so^rrekare , si^rtoga muko^re iku qteju:koto^ro , pa^rsi^r-
せから 人が むこうへ 行くっていうことを バシ

ruqteju:h^ru^rni
ルッてい風に

A pa^rsi^rruq^r , iq^rpasi^rruq^rte^rna^o:
バシリって イッパシリってね

C pa^f si¹ ruqteju: ika¹:zja¹:
パシルっていう
井川では

B pa^f si¹ ruqteja:da jo ika¹:ziN wa
パシルっていうんだと
井川の人は

A pa^f si¹ ruko¹ toda, ko^f kora¹ zja ipasi¹ ruqte ju:de^f na¹:
パシルことだ,
ここらでは イッパシルって いからな
do^f ro:ro:N ipasi¹ qte misjo¹:ate ko:ju:ga:do¹:
ドロロン イッパシル キシヨ-コ-て こういふ

B pa^f si¹ ruqte iq^f pasi¹ ruqteju:daga ma¹: pa^f si¹ ruqteju:da
パシルっていうことは(大川で) イッパシルっていうんだけれど、まあ、パシルっていう
ika¹:wa
んだ、井川では

A hoidaga ipa^f si¹ ruqte ju:koto¹ wa koko¹ demo cukauga
ホイダガ イッパシルって いうことは ここでも 使うが

so^f re¹ wa ano¹, a:nmar¹ jo^f ikotoba¹ de na^f imono:de
それは あのう あんまり いひとばで ないので

hojza¹: i^f ma¹ kokoni se^f wa¹ ni naqteru^f ra orega
ホジザ- 今 ことに 世論に なってるところ もるが

ozinaNg¹a:, so site^f dora, oremo iq^f pasi¹ rasuza¹:-
おじさんガ- そして ドラ 僕も イッパシラズマ-

q^f te, wa, iwaren:da na¹: ja^f ri ano¹,
って は、云われないんだな やっぱり あのう

「gio:siki¹ zjo¹」, iq^f pasi¹ rasuza:te na¹: se^f wani
常識上 イッパシラズマって 世論に

naqtake^f ra: zja: ma^f tak¹ ra:qte na¹: kore^f ga
なつたらう、じゃあ また来るよってな これが

hucu:uqda^f na¹:
ふつうだな

B ko^f nohe¹ Nzja ma^f zu naNda iq^f temisu¹ ka^f na¹: oremo qte
この辺では ます 何だ イタミスカナ- オレモって

ju:wa^f na¹:
云うよ

A uN iq^f tom¹ suka^f na oremo
ウン イッタムカサ オレモ

Y sa^f qki o giseaNga sjabe^f qtoruto^f ki ni ipa^f si¹ ruqte
さつき おじさんガ ジエベットる時 NC イッパシルって

Juqtamo^f Nde^f ne
云つたのね

A juq^f taq^f ke¹ orega
云つたけ? 僕が

Y hu^f zidaka do^f qkai muko:e ipasi¹ ruqte
富士だか どこかへ むくへ イッパシルって

A iq^f pasi¹ rute^f ju:jo¹ ura¹: ju^f :simade¹ iwano:da^f ka¹
イッパシルっていう ジュウト ユウシマデ イワノーダカ

B iq^f pasi¹ ruqte ju:sa¹: koko^f rademo
イッパシルって いさ ところでも

A hoidaga ku^f zuren:ja nara^f onoho:ga jo^f ke: ju^f da^f na
ホイダガ 劇場や 宿屋の方が 多く いうな

Y ta^f da ipasi¹ ruto juwazuni^f ta^f da pasi¹ rutowa
ただ イッパシルと いわづ NC ただ パシルとは

juwaN kai^f ne¹:
云わないだろうか

A iwanaida¹:
云わない

B i^f kawadaki¹ da ta^f da pasi¹ ruqteju:wa
井川だけだ ただ パシルっていうのは

Y sorekarane¹: a^f mo¹ ga hu^f ruqteju:kotoo, ko^f korahen-
それからね 雨が 降るっていうことを ここへん

zja¹: ma¹: i^f ka wanoh¹ :de pu^f ruqte ju:da^f done¹:
は まあ 井川の方で プル、て いうんだけどね

ko⁷korahoNeja⁷: pu⁷ru^{te} ju⁷wan⁷ka⁷i⁷ne
ことかのでは プル⁷ル⁷テ 王わないふ

A pu⁷ru , pu⁷ru , iwan⁷o : , puruna⁷Noja: iwan⁷o :
ブル , ブル , イワニイ ぶるなどとは

Y sorekara siq⁷pu⁷rutoka hiapu⁷ru so⁷:wa
それから シップルとか ヒップル そうは?

A u⁷N , a⁷me ga hiapu⁷teki⁷taqte so⁷rja: ju⁷sa ,
うん アメが ヒップテキタコ⁷テ そりやあ いうさ

jaijaija⁷i koi⁷rja: a⁷mega hiapu⁷tekit⁷ja: qte
ハイハイハイ コリヤー アメガ ヒップテキタコ⁷ヤー キー クテ

ko⁷eda⁷:ja
こうだ

<Mun⁷> ame hiapu⁷te kita⁷jaqte ju⁷da hajigaga
アメ ヒップテ キタ⁷ヤ⁷テ ひだ がた

huru⁷qte ju⁷koto⁷: ko⁷ i⁷se:wo cuke⁷ruda⁷ja
轟るって いうことを こう 威勢を つづるんが

kokora⁷zja: i⁷ku⁷qzja: hore , ise⁷ga waru⁷imonde
ここにね イクでな それ 威勢が わるいで

iq⁷pasi⁷ruqte ju⁷to⁷na : , so⁷ko⁷: ko⁷ , i⁷se⁷ga
イッパシルって いうと , それを こう 威勢が

cukuguda jo darjo⁷kuga deruda⁷na kotoba⁷ni : , ho⁷sa
つくんだよ 南力が 出るんだね ことば そうさ

ipqasi⁷ruqja:⁷na minna juwa⁷: , mi⁷JacJaNaRa
イッパシルとはな みんな いうは、 ミヤちゃん連云わ

iwan⁷o:ka
ないか

C ju⁷:jo
いりき

B sorja⁷: sjoNnaidana jaqpa⁷si....., hu⁷cu⁷:no kotobaq-
それば しょうがないか やさば ふつの ことば

「dd」 na
だな

Y sorekara kono ha⁷sono , ha⁷so kucino ma⁷: a⁷ica:
それから この ハソの ハソ 口の まあ あいつは

ku⁷ciga waru⁷iqcju:koto o⁷ne⁷: , ha⁷soga waru⁷iqte
クシガ わるいっていうことを , ハソが ワルイって

ju⁷hu⁷:ni
いうふりに

A ha⁷soga waru⁷iq⁷te ju⁷koto⁷wa hi⁷natasju:⁷ga ju⁷ga,
ハソが ワルイって いうことは 向の人⁷が いうが

ko⁷ko⁷qzja:
こ⁷こ⁷では

C hi⁷natasju:da so⁷rja: hasuga waru⁷i
日向衆だ それは ハスが ワルイ

A hasoga waru⁷iqte ju⁷da⁷na ha⁷soga waru⁷iqcju:⁷na
ハソが ワルイって いう ハソが ワルイっていぬ

Y so⁷ju:ko⁷to⁷o⁷ matane⁷: , pasoga waru⁷iqte juwani⁷-
そういうことを またお , パソが ワルイって云わ ない

ka⁷ne
か

A pa⁷soga , pa⁷so
パソが パソ

Y pa⁷soga warui a⁷ica: pa⁷soNwaru⁷i
パソが ワルイ、 アイツア- パソンワルイ

A ha⁷so ha⁷suqteju:dena ku pa⁷sqte ju⁷da , ha⁷soga
ハソ ハス っていでのなく パソ って 云うんだ ハソ

waru⁷i naNteju⁷:ka ano o⁷ma⁷qino ho⁷:de
ワルイ なんていか もの もの⁷の方で

Y u⁷cino hu⁷:demo ju⁷ne⁷: ha⁷soga waru⁷iqte ju⁷kotowa
ウチノ はう⁷:でも いのう ハソが ワルイって いうことは

A ku^uci^g ga waru^ui, mo^u ju^usi, a^unojaro : kuciga
タチが ワルイ も いうし; アノヤロ- クチが

waru^uijaro:daq^ute ju:da^ujo kokozza:
ワルイヤロ-ダッテ いりうじ こくぞざ:

Y so:ju:ko^uto: ma:, a^unojaro : pasoN waru^uijacudaqc-
そいうことを まあ、 アノヤロ- パソン ワルイヤツダ

ja: juwan^uka^une : , pa^usuto wa
とは 云わないかね、 パスとは

A ju^uwano^u: na pa^uqaja, o:kawazja: juwano^u: na
云わないね ナ パスとは、 大川では 云わないね

C juwanai^u: na
云わないね

B hi^una^utaata^urizza: ha^usuno waru^uijaro: da qte ju:ko-
日向あたりでは ハスノ ワルイヤロ-ダッテ いうこと

to: ju:wa^una: , ha^usu^uqte ju:da^uzo, ku^ucino
を いわね、 ハスって いうんだぞ、 口の

waru^uiqte ju:koto: ha^usu^uqte
わらいで いふことを ハスって

Y do^u:mo ariga^uto: gozaima^usita ma^uta, i^uzuremata
どうも ありがとう ございました また, いづれまた

osewa N na rukamo siraN
お世話 なるかも しない

A u^u:N sorja:, nanikano naMde sewa N na rukamo
うん それい 何の 何で 世話に なるかも

siNno:q ze
しないぜ

B o^umoiro^ui ze hi natano, hi natamo huucu:, wa kara-
面白いぜ 日向の 日向も ふつう わからぬ

na ikoto: ju:qdai^una: amega suda rerutoka na Ntoka-
ことを いわうあ アメガ スダルとか なんとか

qe^uqu^una: amega hu^uru^ute ju:jo:nakoto: , a^umega
云ってな 用が 降るって いうようなことを アメが

sud^ureto kijagaqa^uqte ju:jo:nakoto: ju:na:
スダレテ キヤガッタって いうようなことを ハナ

sakutacu^uwa:, a^umega suda^ureru
作展は アメが スダルル

B ai^ucuga hi toridaki^u ju:wakegda^ujo hoigda^uga.
めいづが 一人だけ いわわけだよ だけど

a^uju:kotoba^uo
あいうことばを

Y so nosito^u mo hoizja: , ja ene^uqte ju:daka sono
その人も それでは ジエ顔って いうのか その

o ba^u:saNni, ni^uto^uruqeju:daka
おばあさん、 にとる くわじゆだか

B e^uko^uzikadano
エコジカだの (と作展がいの意)

A u^uN, so^uno kuci^uada^una
うん その 口だな (エヌと同類の意)

Y so^uno kucida^une:
その 口だな

A ja^une: no kucida^una
エヌの 口だな

Y so^uju:sito^uga o^uru^uda^une do^u kodemo
そういう人が 居るんだね どこでも

A u^uN do^ukonimo a^uruqda^ujo
うん どこにも あるね

B hi^unata de ju^uwano: koto^uba^uo cukau^uqdajo.....,
日向で 云わない ことを 使うよ

Y mjo^u:na sito^udane:
夢を 人だね

B o^{mo}sird^l.....dajo sa^{kutacu} qte
よろしい(不)だ 使って

A a^{si} qdo:guradano ga^{qdo}:guradanoNte site:^{na}:
シドーメラの ガードーメラだのなど 入れ

ju:dai^{na}: curamaⁱtoite
云うんだな 捕まえておいて

Y sⁱ qdo:zurata: do^o:ju:^o todesuka^{ne}:
シドーメラとは どういうことですかね

A sⁱ qdo:zurata^{te} a^{no} siqdo⁷:zuraga^{qte} koide^ano:
シドーメラって アノ シドーメラがって これで もの

ma^{zu}, jama^{gu}caN kokoⁿⁱ iru^ra, sorjo^r kini-
山口さん ここにいるから、 それ 気

irano: tok^l ni ju:da^{na}: , ja^r ma^r guqcaNo kiniirano:-
人らぬ 時に いんだね , 山口さんを 気に入らぬ

de^ano siq^{do}:zuraga ki^r teiteja^o: , sja^r be^r reqcju:-
アノ シドーメラが テイテヤー シヤベレっていっかん

dask^e ga, naⁿte ju:da^{jo}, s^orega keqkjoku jama-
だか なんて いんだい , せが 始め 山口

gucisaNg^a ki^r te haⁿaso^o: sitekurjo^{qte} ju:da^{qej}-
さんが 来て 話を してくれて いんだって

u:koto^rga, ano: mo^{si} jama^{gu}caNo kini^rano:
いとどが あう もし 山口さんを 気に入らぬ

bajainida^{na}: a^{no} siqdo⁷:zuraga, toka ga^r qdo:-
場合にあね アノ シドーメラが とか ガードーメラ

zuraga ki^rte, sjape renaNte jugkega ko^rziranoka^o:
が きて しゃべれなんて 云つたが 知らん顔を

siteita^o, qte ju:koto^rga keqkjoku an^rsitono:
していた って いわことが 結局 の人の

kotobagda^{na}: , ko^rziranoka^o: siteita^o qte ju:ko^rto:
とばだな コジラノカ- シティタって いわことを

ju:^{ra}, kozi^rranoka^o: siteita^o qte, ju:^{ra}
いうだろう, コジラノカ- してたって いうだろう

hama^macuno ho^o:adem^o, ko^rziranoka^o: siteita^o
浜松の 方でも コジラノカ- シティタって

ju:koto^rwa, damaqteita^o qte ju:kotodai^{na}: kokoraq-
いうことは だまっていたって いうことだね ここへ

za^o: , o^rja: ko^rziranoka^o: siteita, zin^rzja:
は 俺は コジラノカ- シティタ 学では

do^o: kakuda^{ka}na ko^rziranoka^o: siteita^o i^rwa no:-
どう 古くのかな コジラノカ- シティタって いわなか

ka ko^o:ni^r:ra
幸見ら

B eo^rja: ju:^o koko^rrasja ko^rziranoka^o: siteita -
それは いわ ここでは コジラノカ- シティタ

qej^rjo
っていっ

A ki^r:ri o^raku aiso^o: cukaqte o^rja^r ko^rziranoka^o:
(不明) ちゃん 愛想 使つて キリヤ- コジラノカ-

sito^rtaqe ju:^odajo, keq^rkjoku kokoe gjo^rse: niN-
シティタって いんだい , 結局 行商人が

ga kito^{na}, hu^rton kaqte kudasa^r itoka mo^rhuo:
さね ふとんを 買つて 下さいとか 毛布を

kaqte kudasa^r itoka jo^rhukuno ki^rsio kaqte kudasa -
買って 下さいとか 浴服の 生地を 買つて 下さい

iqte ku^ruzu^r ho^rsruto, da^rmaqte ko^rsite
て 来るだり? そりすると 黙つて こうして

iruda^rjo, do^rpard u wake^rda mo^rNbaraida^{na}: ,
いるのだい 追い払う 調査 門前払いだな

o^rkotowar^o qte maci^rzja: ju:da^rga^rna: sono^rka:rini,
オコトワリって 司では 云うんだがね その代り

o^rkotowarina¹ Nte ju:kotoba ko^r razja cuka^r no:damo-
お断りなんて いりことば ことらでは 使わないから

Ndade., mac^r karad^r demo jome^r qkodemo kiterja: sore:
町からでも 路でも 来ていれば それへ

u^r raho:demo okotowari^r qtejo: jo horja: ano cugo:zj-
俺の方でも オコトワリっていりよ それ あの 相合では

a:

C ho^r:sura
そつだるう

A kito^r mo, o^rkotowari^r qte ju:dajo, so:suruto
(誰か) 来ても オコトワリって いらんだ そうすると

ikuda^r jo, so:nakoto: koko^r rade ka^r etasito^r wa
いくよ そんなことを こちらで 生れ育った人は

iwano:da^r jo so:damo:Ndade, so:natoki^r nja: ko^r zirano-
いわないのだ だから そんな時には 知らん顔

ka^r: siteirudo^r koqoi^r: na^rnjo: igte^r mo,
しているんだよ こつらへ 何を 云っても

so^r suruto^r korja: da^r meda^r naqteqte iqcu:jauwakeda^r i.
そつすると これは だめだなって云って 行っちゃう駄だ

so^r notoki^r ni, cuka^r koto^r ba^r ga ko^r ziranoka^r :, so^r rja:
そのときには 使うところが コジラノカ - それは

da:naqteta^r qte ju:kotoqa^r na^r: ano, kaisacusruto
黙っていたって いうととたな あのう 解説するど

o^rrja:^r ka^r uga jadaqkeda^r da^r ma:qteita^r qte, a^r iso:-
俺は 買うのが いやだったから 黙っていたって 愛想をし

sinai^r qte ju:koto^r o koziranoka^r :
せいひつ いうことを コジラノカ -

B maz^r do:ju:tokiga e:da^r na, to^r nika ku ko^r sei^r saNwa
まづ どういう時が 良いかな , とにかく 庚申講は

e:^r na
良いな

A ko^r siNsanWa^r s^r : , kd^r siNsanNi mata kitemirja:
庚申講は 良い, 庚申講に また きてみれば

e:wa^r ja
いい

B sa^r kjo^r : naNejo nomuadena^r :
酒を とにかく 飲むからな

Y nani sono ha^r cigacu jo:kade su^r ka^r ko^r Ndowa,
何 その 八月 八日ですか 今度は

so^r notoki^r wa, ki^r temo e^r :ka ne^r :
その時は 来ても 良いからね

A so^r notoki^r ga ki^r temo joika^r qcju:ko^r towa^r na, ano
その時が 来ても 良いからね ことはね あの

ko:site jaru^r qtju:koto^r sa^r ozisaNga ano, kokoaqzja:
こうして やるっていうことさ オジサンが あのう, ここでは

kami^r jusimano ano: mori^r sita tadaqesi^r qtju:ositoga
上島の あのう 斎下忠哉っていう人が

ko^r siNsamano to^r baNrasi^r :wa, si^r moju^r zimanimo
庚申講の 当番らしい 下島にも

o^rra^r gakumito ma^r da hu ta:c^r aruda jo miq cu^r aruda jo,
俺達の組と まだ ふたつあるんだよ (全部C) みつあるんだ

sono miq cu^r no uci^r ni, ma^r da ki^r :teminai doko:
その みつつの 内IC まだ きていてみない どこが

ga to^r baNdaka o^r ra^r ga kunja: oza^r watadaici^r qtju:
当番なのかな 俺達の組は 小沢忠一っていう

uciga^r to^r baNdaga so^r no uci^r wa do:mo aNmari
歌が 当番だが その家は どうも あんまり

ka^r basi^r kuna ida i^r mahai sage^r rutokoroga, soide
かんばりしくないのだ 今もう 察するところ それで

so^onō uoja: dame^odade m^oda hutakuci^o no uoiⁿⁱ.
その家は だめだから まだ ふた口の 家の

「u^uN korja: jo^o ina^o:qte ju:tokoga aq^ota ra^ona^o
うん これは 良いをあって いうところが あったを

ore de^onwa dedemo hagakidedemo si^orasite^o jaruqde^ona.
かれ 魔術でも はがきでも 知らせてやるからな

ho:daga aq^ote mona:, aq^ote^o mo eo^okoje i^oc^o:
だけど あっても あっても そこへ 一^o段

juq^ote mi^o te, naq^otoku site kurenai kotonja: si^ojon-
云ってみて 勝利して くれないことには しかたが

naida^o de, ko^ono kani juzimano are^o daqtemo kono
ないんだから、この 上品の あわだつても この

ozisanga tanoNde^o na, dade iroiro, sono hacibe:-
おじさんが 頭んでな だから いろいろ その 八兵衛の

no ucida^oki^o tanoNdejaruqte ju:koto^o mo ko^orja e^ojo
家だけ 痛んでやるって いつもとも これは 無い

sorja ko^oni:raga. nani^o ja ha:cibe:ja kon^o ja
それは 幸せらが 何や 八兵衛は 今夜

o^okjakusaNka: ta^odaq^o te, juq^o te, i^otaqt^o mo jo^oi-
お客様さんか 忘て 痛んで いたつて 良いん

da^ona: ano: becuni, si^oto no o^okjakusaNo na^oze
だれ あのう ～～に 他人の ものを なぜ

tanoNdata: juwareno:de da:remo hazime sandaqtemo
新しさとは 疲れなから 誰も 一(はじめ) さんだつても

daredeqte^o mo e:dade, daga so^onoucie, ko:sjo:site
誰だつても 良いんだから だが その家へ 参照して

mina^oi^o to^o ma^ozuide^ona:, so^odenakerja gjo:sjo:ka-
みたいと まざいからな そりでなければ 行商かなんか

na^oNno kataciqde sa^oka^o nacurini kitaga ikiba^o guresta-
の 形で 売り方 が 来たが 行きはくれたが

ga do^omo ore kurum^oga paNkusitatoka, jare:
どうも おれ 里^oが パンクしたとか

doNd^okode baq^ote ri:ga owaqtatoka^o de ss^o : , do^odemo
どこかで バタリーが 痴ったとかですか どうしても

tomete kurjo:ja^o qte iqte ike^oba: sorja: daNmakte-
とめて くれって 云つて 行けば それは だまつて

de^omo^o ikeru^o hitonuci: ko^onoheNsja: ko^onouci:
て 行く上 他の家へ この辺では どの家へ

ki taqtemo huNdago to mete kurjo:ja^o qcujuate a:da-
来たつても だけど 当めて くれといつて あだ

medame^o qoja: iwa^o naida^o zeqtai, doko^o nouci jama^oga,
めだめとは いわないかと せつたい どこの家 山が

so^orja: sa^o dame^o qteju: iemo aru^o ga koko grazja:
それはさ だめっていう 家も あるが こくら山

miNna o^o tasuke, tasuke^o ruacjuat^o cja: naNdaga^o sono:
みんな オタスケ 助けるといつて 何が そのう

kona^o atasito^o wa^o tometajaru, da na: ora ga ata ri-
因った人は 治めてやる、 だなあ 俺達の あたり

demo ho^oqdag^o
でも そうだが

Y de^osu^oga, so^onotokoro ene^o: ma^o o^ozisanNo ano:
ですが、 その所へね まあ もじさんの あのう

sono^o nakama^o no ko^osinko: no tokoro e wa ozisanga
その 仲間の 庚申請の 所へは もじさん

ikude^o sjo
行くでしょう

A u^oN ikudai kuda
うん 行く行く

Y ho^okano tokoro^oe ano: ma^o iqtabaaini ne^o: o^ozisan-
ほかの 所へ おう まあ 行った場合にね もじさん

wa ikanwakə̄ dāne
は 行かない駄だね

A īkənaī' sa ikanaī' sa sorja:
行かないさ 行かないさ ソルジャー

Y īkjā: koqcī' ga ōkorarē' cjaū' ne
行くは こっちが 駄られちゃうな

A uñ̄ sorjā sōkō wa ikareno:̄' ga, sōkōwa ikareno:̄' ga -
うん せね そこは 行かれないと そこは 行かれないと
ja:qte ju:kotowa ārusa sorjā: hac̄i be:nara icio:
やつて いりことは あるさ せね 八兵衛なら 一応

「sl Nsekidade, 「nan̄da ka'miju zimano ko:seiNaeNo
親戚だから なんだ 上帝島の 庚申請へ

kimi: kitemjō: ja iqpen̄, teiē ba, oraga, tā maci-
君 来てみよ いっぺん といえば 俺の 田町の

nō'kē' Ntao Curetē kurujō:̄' na mō'ndena : , tāma ci-
残太を 連れて くるようを もんでも 田町から

okara icū'mo ora nī'Nzul:ga sukunā' imondā 'kē' Ntani
おから いつも 入数が 少ないで 駄太

nō'kō qte kurjō:̄' qtu:dā' jo., jā' rō: nō'mitā' imondā-
残って くれていいんだぞ 野郎 取みたいでな

dē'nā:

C 「nō'mudā'kā' keNnī' wa
欽のか 能兄は

A āzjā: ejonnā' ida sakekuraide
おはい えいのなはいよ 酒飲みで

C hō'kā:
そつか

A kē' Ntarō:̄' sa, kazitake nō
駄太郎さ カジタケの

C 「ū'Nka kazitakeno keNtarō:saN̄' ka
うん カジタケの 駄太郎さんか

Y 「n̄'Nka wasja: ō'zisann̄ iqte moraitaijō' na kiga
なにか 私は おじさんに 行って 買いたいような 気が
seru'nē:, ō'mosirō ide
するね 面白いから

A ō'mosirō' ka: naī'sā becuni, becuni ura koto ba:
面白くは ないさ 別に 別に ことは
kaete cukaishenō' de jaqpā' ri ī' ma ju:jō' na wa keda-
使って 使えないから やっぱり 今 へようを 訓だが
ga sā:
が

B ō'mosirō' idā' jō hoNto konodā' iku' wa:, maz̄ā:
おもしろいよ 本当に この大工は まざ

beNmō tā'cusī:
井も たつし

A 「koemō' tā'cuka
コエモ たつか

B ī' jā' beNgā' sa
いや 井がさ

Y soren̄i kō' ga tō'ruseī' ne
それか 通るルハ

B 「koē' ga tō'qte:nā:, soidē be' Nsidadē jō' iga' nā:
声が 通ってな それで 井土だから 良いがなあ
kō'jū:
こういう

Y ī'kura hanasjō̄: sit̄e'monē:, kō'gā tō'rā' Nto
いくら 話を してもね 声が 通らないと

B 「koegā' tō'rā' naitō damē qdā' jō
声が 通らないと だめだよ

A ano: ko^eno to^ran^aito ju:wa 「koma^tatamondana」:
 あのう 声の 通らないと いわのは 困ったものだなあ
 「ki^l murasaNno ano, 「sja^l te:qkozo:gana」:, a^o sima-
 木村さんの あのう、弟がな 背島幸一って
 ko:ici^l qten: mazu mo^rnosugoi^l dai sizo^l:ka daikuke-
 まず ものすごい 大工雄奈
 Neikugijo:ku^maino ku^rmia^l icjo:wa, a^o sika^l kete kita-
 組合の 組合長は 押しかけて 来た
 qdagana^l :, to^rime no, maNda, i^e no ma^rNnaka^l
 がな 東名高速道路の まだ 駐の まん中を
 to^rqcjastada^l jo, soidamoNda^l ko^rNda hig^r kosi osite
 通つたんだ それだから 今度 引越して
 riqa^l na ucjo: cukuqta gana^l : sore^l gana^l :, a^o sima-
 立派な 家を 作つけられどね それがな 青島幸一
 ko:ici^l qtena: riqa^l na ni^rNgenda ura^l ta: waka^l iga-
 てな 立派な 人間だ 俺よりは 若いが
 na^l :, sorede ha^l : ni^r daka saNki, sizo^l:ka
 それで もう 二期か 三期 静岡
 daikukeNeikugijo:ku^maino ku^rmia^l icjo:lo ni ki^l jaru-
 大工雄奈組合の 組合長を 二期 やる
 wake dajo, sora^l gank^l :, mazu, oja^l katadade
 けたよ それがな まず 親方だから
 jaqpari, ha^l :, sono, g^l kaiga hazimarja^l, i^r kina-
 やつり もう その 会議が 始めれば 開頭に
 ri a^l isaco: siru wake^l qdajo, scida^l ga koe^l ga
 あひさを する わけだよ だけど 声が
 to^rana kute sijona*n*i, sosit^l ko: sjabe^l qte
 通らなくて どうしゃもない、そして こう しゃべって
 itena^l : sjabe^l qte ita^l qte ikima^l sitaga^l
 いてね、しゃべって いたって(県口 不明) いましたが、

q^rteju:jo^l : ni daNda^l N na^l qte ku^rrudajo, so:siruto
 っていうように だんだんに なって くるのだ、そうすると
 zibuNda^l mo omo^l:rasi:da^l jo so:site mata, omoide^l -
 自分でも 気がつくらしいのだ そうして また 思い出
 itajo:ni mata o:ki^l : kosei^l cja^l na, ju:daga^l so:si-
 したように、また 大きい 声を してはね 云うのだが そうす
 ruto mata muko:no ho^l:e sono jo:Nzju^l : niNmo sa:qte -
 ると また むこうの 方へ その 四十人も 座って
 ru hanasi^l su^l ra^l ho^l re, soidamo^l Nde maiku^l demo
 いる 話だろう それ、だから マイケで
 kuquke^l te okuqde nakerja^l na^l ano: ku^rmia^l icjo:no
 くっつけて おくで なくではね あのう 組合長の
 hanasi^l ga dame^l qda soide aredaki^l ga, ku^rmia^l icjo:mo
 話が だめだ それで あれだけが 組合長も
 mo:cjato koga to:ru^l to^l jo^l ikumia^l icjo: dagana^l q-
 もう少し 声が 通ると 良い組合長 だがなあ
 to omo^l :dajo, omo^l :qcu:jokoto wa, iq pa^l Nno sju:ni
 思うんだよ 思うっていうことは 一般の 実に
 ki^rko^l onaka: i^r manaNto^l juqtadaqkeqte ju:sitoga
 聞こえなければ 今なんと 云ったかって いう人が
 hi^r to^l ride^l aqtazia hanasi^l ni narano^l : , a^l re
 一人でも あったんじゃ 話に ならない、あれ
 joikumiaicjo:daga koe^l ga to:rano^l :daki^l ga kegte^l N,
 良い組合長だけど ぬか 通れないので 欠点
 daga su^l go^l i e:daNnaden: sia^l ka risite, scrogga^l
 だが すごい 良い且都でね しつかりして、それが
 ki^r murasaNnon^l : , ojaka^l tano, ojaka^l taqte ke^l N-
 木村さんのお 親方の 親方って 親
 ojaNno kozo^l : , na^l te ju: kozo^l :daqta ml^l seo
 ちゃんの 小僧 何で いう 小僧だったが、みさを

C uN
ウン

A a^{er} rega i^{te} ita desiⁿⁱ
あれが 行っていた。弟子に

B de^{re} sini i^{te} ruka ano: ke^N, ke^N daIno
弟子に 行ってるか あのう 師、健大工の

A a^{re} da^{re} ikuni sirudagejo: wa
あれ 大工に するんだそうだ

B do^{re} ja
どれを?

A mi^{sa} ootju:daqjo: jo
豫っていなんだそうだ

B ke^N daIno
健大の

A ko^{zo}:
小僧

B ano:
あのう

A to^r sibo: no saja^te:
トシボーの 舎弟

C de^r rega^d do^d daka
どれが どうか

A ta^r to irude wakarano^r qdaja
沢山 いるので わからない

C ta^r Nto^r aruda^r na
沢山 あるんだね

A so^r site juNbe ore sokoi tomaqte kita^r ga^{sse}:
そうして 昨夜 オレ そこへ 白って 米たがさ

mi^r sawo, mi^r sawono, oto^r qcjanNo, na^N da, a^r nide^r -
操 握の お父さん。 なんだ。 兄弟

siga ki^r ta kon^r ja, ni^r zju:roku no ko^r daN, ka^r wo-
子が 来た 今夜 二十六の 子だが 頭を

dase^r o^r to^r qkja: so:sitara kitae^r ka^r sa:, so:sire,
出せって云った そしたら 来たよ そうして

ho^r Nto:ri kju^r cjo:meno ko^r ko^r: ko:ju:oitaciq^r de^r
本通り 九丁目の こうこう こういう生い立ちで

mi^r sao^r qtju:mono wa screno hikodaka jasjagoni ataru-
戻っていものは それの 會孫か ジャシガニに 当るん

da^r zo^r qtju:koto:, ore juqt^r da^r jo, o^r re ojakatanano-
だぞっていうことを オレ 云ったんだよ オレ 母方の

na^r arja: hikodaka jasjagoda^r jo^r ojaka^r na^r,
ね あれは 會孫か 會々孫だよ 母方の

ho^r Nto:ri^r kju^r cjo:mezu^r ra^r kimura tacuzo: inbeno
本通り 九丁目だらう 木村 収藏 岡部

masajas^r wa, sosite ki^r muratacuzo: inbenomasajasuq-
正保は そして 木村辰藏 正保の

teju: namas^r wa, se^r Ngehsamano hueinNo eju: rino
ていう 名前は 痘間神社の 音諱の 修理の

toki^r ni^r kimura^r teju: se^r :o, moraqte aruda^r zo^r
時に 木村っていう 姓を 買って あるんだぞ

waqqiraga hikozi^r iaka jasjagozi^r wa qte^r ju: hansei^r o
私たちの 会祖父が 會々祖父はっていう 話を

si^r ta^r dajo, so:sitara si^r ran^r :qte^r ju:da^r ja missaoga,
したんだよ。 そしたら 知らないって いうんだ 掛が

o^r to^r qcjanNa^r so^r ju: hanasi^r ga^r a^r qcura ozi^r :cjaNkaq-
お父さんが そういう 話が あっただろう おじちゃんからかって

tara nanNi^r mo^r sirano^r :qcui^r keja^r :, soide^r ki^r mura-
云ったら 何にも 知らないって云ったよ それで 木村

tacuzo: inbenomasajas^r qte^r ju: wa, ki^r mura ke^r Ncj-
辰藏 岡部正保って いうのは 木村 鮎ちや

aNno, misaono ojaga keNi' cide, 'keNi' cino ojazign
 んの 挿の 鳴が 鍵一で 鍵一の 親父が
 kimurato' josaku(de), tojosakuno ojaziga ajo:sukeda'-
 木村豊作で 豊作の 親父が 庄助大
 iku(de), 'sjo:sukeda' ikuno ojaziga kimuratacu,
 工で 庄助大工の 親父が 木村辰
 zjana'i tacuzo:zu'ra, kimuraso:su'ke Ntoki hai
 じゃない 辰底だらう 木村庄助の時 もう
 'mjo':ziga aqta'da'jo, 'sonoma'enja:, ta'cuzo:Nto-
 苗字が あったのだ その前には 辰底當時
 kja:, ta'cuzo:daki'daze arja, 'mjo':ziga na'idajo
 は 辰底だけだれ あれは 苗字が ないんだよ
 sonoto':ziwa, 'soideka'N se' NgensanNo antokini,
 その当時は だけど 戊間神社の あの時に
 hu'si' nnotoki'ni' ki'mura' qte ju: se':o moraqtte,
 普請の時に 木村って いう 姓を 貫って、
 inBenomasa' sajas' qteju: nameo, ta'cuzo':o maNnakai
 院部の正保っていう 名前を、辰底を まん中に
 irete ki'mura, ta'cuzo:zu'ra honTo: no, o'sana,
 入れて 木村 辰底だらう 本当の 幼ない
 toki'no namaewa, kimuratacuso: i'Nbeate, na'nina-
 時からの 名前は、木村辰底 院部って なにな
 ni'l Nno i' Ndade'na, ko'zatoheNno, i'Nko' zinaNte
 院の 院だからな、こざと邊の 院居士なんて
 jo'ku ju: i'N, be'toju: ziwa bu'dajo
 よく いう 院 部という 字は 部だ
 Y bu':, hu'N
 部 ふん
 A bu, bu, i'Nbenomasa' sa' jasujtu: sjo':toju: zino'na,
 院 部 院部の正保って 正という 字のな、

inBenomasa' jasujtu: ju: namae mo'qteru, are ri'gpa-
 院部の正保って いう 名前 持ってる、あれ 立派
 na'ze' o'raNho:, spide' sc'reo a'o'simako'icini
 だぜ おのれの方、それで それ それを 青島幸一に
 Y sa'muraika na'Nkami'taida'ne:
 待か なんかみたいだね
 A a'o'simako'ici' sini juq'ta'dajo juNba ci'gto 'jo'qte
 青島幸一氏に 云つたのだ ゆうべ 少し 使って
 itamo'Nde, su'sjo': moraqtari nani'kasite mi'jage
 いたので、寿司を 買つたり 何かして みやげ
 moraqte tomaqte kitaga'sa: orja:, so:sita' tokoroga
 買って 泊って 来たがさ 俺は そうしたところが
 na'Nda omaesaN so'koma'de keNkjusitei rukaqte
 何だ お前さん そこ迄 研究しているって
 keNkjusie'i tei ruqte zibunNo, o'rja: icida' idaikuqda-
 研究しているって 自分の 俺は 一代大工だ
 ga'na:, oremo' daikude' ici'dai' to'ruadade,
 がな 俺も 大工で 一代 通るんだから、
 o'reno ojazi'wa kimurato'j sakudaga to'josa'kuno
 俺の 親父は 木村豊作だが 豊作の
 ojazijori' koreo' soreo' inBenomasa' jasujori' mada
 父より これを それを 院部の正保より まだ
 sonomu'ko'o' orja' siritaku'te kanawa'no'gta' ju'da-
 そのむこうを 俺は 知りたくて たまらないって いうのだ
 jo, si'ri'takute kanawa'no'ga, si'ruko'toga deki-
 知りたくて たまらないが 知ることが でき
 no'da'jo, so'reo' siqta'qcu: jaca: ko'ni: jugta-
 ないのだ、それを 知ったという 話は 幸一 云つた
 qko'ka'i kuzuren'o'no oqsaNga, je'zumeNo, jo'su-
 かしら 刷野の 和尚が 検図面を 検図

meNo kuretajacu
面を くれた話

B 「si¹ra²no: sorja:
知らない それは

A so¹rojō: ki¹jōsisaNNi ima kajaita¹ga²sai¹, ka¹jaite¹
それが 滅さんに 今 返したがさ 返して
doi: a¹regā nakuna¹qtaqtjuqto¹na, orja: nusū qdademo,
どう、あれが なくなったってな 俺は 盛んだも

ano:, to¹qtdemo na¹ndemo naimoNda¹ga, ko¹ju²:
あの 取ったでも なんでも ないものだが という

wakedo oreNtoko¹ni a¹ruqte¹ N¹ sicuni¹:NtokoNi
滅で 俺の所にあるって(云つたら)うん 実兄のところに

a¹ruqteju:kotowa siq¹cja¹: iruga¹sa, iru¹ga²qte
あるっていふことは 知っては いるがさ いるがって

ju:kotoN naqtenu¹: arjo: mi¹sete kurjo¹:qte ju:ko+
いうことに なってな あれを みせて くれって いうこ

to¹N naqtazu¹ra, hoidamoNdo ko¹ha ida mooteiqte
とに なったんだろう。だから このあいだ 持っていって

miseta¹jo, sore: suq¹ka²ri ke:o: nisa¹, no
みせたよ、それに すっかり 親父 二才 の

naNneNno naNacu¹ri sita¹qte ano: ku¹sureno¹:no
何年の 何月に したって あのう 前野の

kaNnoNdo: no su¹mē Nga aqte¹sa soreo u¹ra ga kozo:ga
親音堂の 図面が あきって それを 俺の 息子が

toqcja¹Hwa ko¹re² ho¹idemo, sa¹gasida¹itte kitaqdaga,
父ちゃんは これを それでも 探し出して 来たんだけれど

jera¹i ta¹isita¹ mo¹Ndaqcjuqtena¹: sanNiN jo¹mida¹-
たいへん たいした ものだって云てな 三人で 読み出し

teite mī teita¹dajo:, so¹siteite¹ ki¹jōsisaNga
ていて みていたんだよ、そしていて 清さんが

o¹rja: a¹rutoka : siqte¹tada¹qte orja¹: ju¹da¹jo
俺は あるところは 知っていたんだって 俺は いうんだよ

aru to¹ka:, gte¹sa¹: oreN¹tokoni a¹rugdajocqcu:wa-
ある所は ってさ 俺の所に あるよっていうわ

ke de iqté, sicuni¹:, do¹:eit²e sorega sicuni¹:
けで いって 実兄 どうして それが 実兄

Ntoko¹ni arudaka qte ko¹ju:koto Nnaqte i¹roiro¹
の所に あるのかって こういうことになつて いろいろ

hanas¹o: sitaqde¹jo so¹site so¹rewa oq¹sanNi¹
話を したんだよ そうして それは 和間に

moraqtekita wakeqa¹ga¹na¹, ki¹jōsisaNga iqpeNna¹:
貰ってきた わけだが、 清さんが いっぺんなあ

wa rial¹ ko: zu¹ro: kime¹tajo:de i¹takoto¹ga a¹ruda-
割合 こう するを きめたようで いたことが あるん

jo anoko:, maci¹: iqtekita¹ri na nikasite ko:
だ あの、こう、町に 行ってきたり 何かして こう

hu tekusa qtaqjo:na kataciN¹ naqtako to ga a¹ruda na¹:
よてくさったような 形になつたことが あるんだな

tu isjo¹ga:, a¹notoki¹ni ano:, daNto¹so¹daide na¹:
大将が、 あの時に あのう、 塚塙總代でな

kuzure¹ ke¹nokubo¹ga, sore¹ga mooteiqte o¹te¹rai
崩 お久保が、 それが 持っていって お寺へ

hiNja¹qcaqta wake¹daja: ki¹jōsisaNga, koNanamona:
やっわった わけだよ 清さんが、 こんなものは

o¹rega hokansirumo Nzja:na¹iqcjuqte, so¹re² kuzure-
俺が 保管するもんじゃないって云つて、 それを 崩

no: no oqaSaNga tosjo:rino mimiqto¹i ozi¹sanGa¹sa:
野の 和尚が 年寄りの 耳遠い おじいさんがある

da¹ikusau ote¹rani aqtaqja: naNni¹mo narano¹ga,
大工さん お寺に あたって 何にも ならないが

ano 「orja: ho're ko':ju:da oqsaNni「mo, ki' jocisaNni-
 あの 俺は ほれ こうのうのだ 和尚にも 清に
 mo ko:ju':dade, ano: 「da ikusaNga mo qteigte
 も こうのうんだから、あのう、 大工さんか 持っていって,
 o'ku'to, naNso「ja mania ukotoga aru'kamo sirenainde
 おくと 何かの 間にあうことが あるかも 知れないから
 mo qte ikinas'i qte kure tawake'da, a: arigata'i q-
 持って 行きなさいって くれたわけだ。 あゝ ありがたい。
 te ju:koto'demoqte, sa: mi' tatakoroga omae,
 て いうことでもって さあ 見たところが お前
 mu'kasino zi'de jo'mena iqtajeu: wake'qda, jo'mena -
 昔の 字で 筏めないっていう わけだ, 筏めな
 imonde jakusano「hi'rajazi:na:, ore'mo: sono,
 いのち 八草の ヒラヤ姫ね、 篠も その
 so'iqtajeo':no koto'wa' kiocuke'ru otoko'dana「hi'ra-
 そういうような ことは 気をつける 男だ。 ヒラ
 jazi'ga ikl'te itaqda':jo, i'ki'te i'taqzia: naijo
 生きていたんだよ, 生きていたんでは ないよ
 kusu'reno: ojazi'ntokoi kite, 「o'jazi'ko'ju':mono:
 崩野の 親父のところへ きて、 親父 こういうものを
 morsaqte ki'tajeqta:「ke'Nziro'ni:N tokai'ki'tesa,
 買って 来たよっていったら 錦次郎兄の 所へ 来てさ,
 ho'ka, ore'mi tag'cja: wakarano'ga'sa qte ko:ju:-
 そうちか、 俺が 見たって わからぬがさって こういう
 wakede ha'i, naNnade, wa'karano'te ju'demonaiqa,
 わけで もう、 何だから わからぬがさって いうでもないが,
 wa'karuko'ta: wakaruno'soide'mo ojazi'konozio
 わかることは わかるが それでも 親父 ここの字を
 「domia'ruka:qte jugtakoroga「ura'o'jazimo ciq'ta:
 くらむるからって 云ったところが 俺の親父も 少しは

z'i'wa jom'a taqda:jo, soide'ga jo'mena idajo naninan-
 字は ジョムア タクダジョ、 ソイデガ ジオメナ イダジョ ナニナン-
 ino so:ro: naNneN, na'Nno so:ro:bunde ka'ites'ru
 の 番 何年 何の 英文で 書いてある
 wakedu'ra, modorizi'nanKa ka'ite「kimuratacuzo':ga
 読んだろう、 漢字なんか 書いて 木村辰蔵が
 ka'itada'zo orja:, soide'ko'raga, 「to:kajomita'jana':-
 書いたのぞ おじや、 ソイデコラガ、 トカヨミダイ(小羽)があ
 qc'juta' tokoroga so' demo sorja「dai'gakuno se'nes':toko'
 っ云った ところが ソウでも ソルヤ 大学の 先生の所へ
 idemo moqteqte, ano: 「m'i temoraude nake'nja「dam'i daqo-
 ても 持っていって、 あのう 見て買うので なければ だめだって
 juq'ta tokoroga zi'ga sono「ke'Nziro'no zi'ga, sorja
 云った ところが 篠が その 健次郎の 篠が それは
 ja'kusano「hi'ra'jaaNtokoi moqteqte misjo':qtu:
 八草の ヒラヤさんの所へ 持って行って 見せよっていう
 koto'N naqtaqda'i, sa: hi'ra'jazi'no tokoro'e moqte-
 ことに なったのだ、 さあ ヒラヤ姫の 所へ 持って
 qtatokoroga na:, sa: 「hi'rajazi'ga i'kicu'i.
 行ったところがな、 さあ ヒラヤ姫が 行きつい
 i'kicukio':na tokiqu'a:ra, kotacui saqte'saqte'i -
 行きつきそうな 時だろ、 コタクイ サクテ サクテ 行きつい
 rudajo, 「o'ko'Nciwa' qte jugtakorog'gana':, u'N'u'N
 るんだよ、 おい今日はって 云ったところがな、 クーンツーン
 ibikjo': kaitena':, sa':qtakiride ibikjo': kaita
 いびきを かいてな、 産ったきりで いびきを かいて
 nate arja:「tosio' heruto a'na'ru'dan':, ne':qte-
 寝て、 あれは 年を 経ると あゝなるんだなあ、 着入って
 i'rusa ta'da, soide'osa'dasahni, orja: hi'raja-
 いるの ただ、 それで おさださん おさださん 俺は ヒラヤ

saNni ci:to⁷ ta⁷ nomita⁷ ikotoga aqte ki⁷ tadaga⁷ do⁷ :-
 さんに 少し 頼みたいことが あって 来たんだが どう
 qda⁷ ja⁷ : sa⁷ dane⁷ qte justatokoro⁷ ga , u⁷ ragazi:wa
 だろう さだ捕って 云ったところが、 他のところの爺は
 da⁷ me⁷ qda⁷ ha⁷ : bo⁷ kecjaq⁷ te⁷ qte ko⁷ ju⁷ kotoNna⁷ qtada ,
 だめだ もう 抜けちゃっていて こういうことになった。
 so⁷ site⁷ hi⁷ rajnsaNNi⁷ soreo⁷ mite⁷ moraitaidajo .
 そして ヒライさんに それを 見て 買いついのだ
 da⁷ medame⁷ too⁷ temo⁷ dame⁷ qda⁷ : ano⁷ sicu ni⁷ , da⁷ -
 だめだめ とても だめだ あのう 実兄 大
 ikusaN , u⁷ ra⁷ gazi:wa ha⁷ : ko⁷ kon⁷ : kjo⁷ neNata⁷ ri-
 工さん、 爺の所の爺は もう ことね 去年あたり
 qkara⁷ bo⁷ kecjaqte naNmimo tameni⁷ ta⁷ da⁷ iki⁷ o
 から おひれちゃって 何にも 後に(たたない) ただ 息を
 siteirudakede⁷ naNmimo narano⁷ qte , to⁷ to⁷ to⁷ mi⁷ te-
 しているだけで 何にも ならないって とうとう みて
 moraeno⁷ koto⁷ Nnacte , holdamo⁷ Nde sizo⁷ :kai moqte-
 貰えない ことになって、 だから 静岡へ 持って
 iqa⁷ ha⁷ na⁷ murano⁷ jasumasa⁷ qte ha⁷ na⁷ no seNse⁷ :
 いって 花村の 康正って 花の 先生
 igta⁷ sa⁷ qkino⁷ pu⁷ ropaNno hanasi⁷ daqko , arega⁷
 云った さっきの ブロバンの 話だった、 あれが
 hanano seNse⁷ : iqtaqkezjansai⁷ ka
 花の 先生 (さっき) 云ったっけね

B uN hand⁷ murazu⁷ ra
 うん 花村だらう

A hanamura a⁷ re⁷ : moqte iqa⁷ sa⁷ . arega⁷ hanamura ,
 花村 あれへ持って いって、 あれが 花村

da⁷ igaka⁷ decja:ino⁷ ga ko⁷ ko:wa deteiru⁷ ra , de⁷ .
 大学は 出てはないが 高校は 出ているだろう。 て。

'soreo cu:zi⁷ tesa so⁷ site⁷ sa a⁷ noliton , seNse⁷ :-
 それを 通じてさ そうしてさ らの人の 先生か
 aka na⁷ Ndkaga kekijoku sorovo⁷ , i mano zida zu:q-
 何かが 結局 それを 今の 字で ずう
 to ka⁷ kinao⁷ ite kureta so⁷ rega sore⁷ qdeaqte mo:hi-
 と 背き直して くれた それが それであって もうひ
 to⁷ cu aruwake⁷ qda⁷ orenosono , o⁷ reno jo⁷ mujacu⁷ ga ,
 とつ あるわけだ 俺のその 俺の 流むやが
 'so⁷ site⁷ a⁷ qtada⁷ jo , so⁷ site⁷ daisi⁷ ni siteitara
 そうして あったのだ。 そうして 大事に していたら
 kijo⁷ sisanga konoaidai⁷ kaNnoNsa⁷ ma husi⁷ Neicu⁷ ra
 清さんが このあいだ 韶音様の 韶音様の 昔話をしただらう
 oreaga , sju⁷ risicu⁷ ra , anotoki⁷ ni , soreo sirita-
 俺が 修理したり。 あの時に それを 知りた
 i⁷ qte , a⁷ re⁷ hja⁷ ku ro⁷ kune⁷ Nni ta⁷ qte ira⁷ :ja ano
 いって、 あれ 百六年に たって いるよ あの
 kaNnoNsa⁷ Nga , i⁷ ma⁷ no kaNno⁷ Ndo⁷ ga hijakuro⁷ kune⁷ N
 韶音様が、 今の 韶音堂が 百六年
 ta⁷ qteiru , ha⁷ te⁷ na , neNgo⁷ : wasuretaga , ore
 たっている、 はてな、 年号 忘れたが、 俺
 ka⁷ itearuga⁷ cjan⁷ , hijakuro⁷ kune⁷ N taqteiruga
 背いてあるがさ ちゃんと、 百六年 たっているが
 sonomae⁷ ni kaNno⁷ NsaNga aqta⁷ dajo , so⁷ no kaNno⁷ N-
 その前に 韶音様が あったのだ。 その 韶音
 saNona⁷ : , koqda ja⁷ rinao⁷ autoki⁷ ni , ima , kimura-
 様をな、 今度は やり直すときに、 今、 木村
 tacuzo⁷ inBenomasajasuto , bu⁷ ra⁷ kuno sju⁷ ton⁷ : ,
 鞍馬と 院部の正保と 部落の とな
 ka⁷ kubo⁷ qte ju⁷ ie⁷ qda⁷ ja kenkubo⁷ wa , ka⁷ kubo⁷ qte
 角兵衛と いう家だよ 家久保は、 角兵衛と

ju:ie da kenokubowa, ka'kubo: qte ju:moNga 'cjo:-
 いう家だ 寂久保は 角兵衛って いう若が 長
 daqke sono kusure' no: no, sono 'cjo': to iNbenomasa -
 だった その 崩野の その 長と 斎部の正
 jasuto 'ke:jaku'o toqta wake' dajo zumeNo, 'ke:jaku'o
 保と 美約を 取った 訳だよ 図面を 美約を
 ka'i cjaqtada soica:, zu 'meNwa' zumeNde zju:buNno
 書いたかったのだ そいつは 図面は 図面で 十分の
 ic'i no zumeNo 'ka'itesa kono zu 'meNdo': rino mono' wo.
 一の 図面を 曹いてさ この 図面通りの ものを
 kimuratacuo: iNbenomasa jasufga, ano:, hi'kia'kete
 木村辰藏 斎部正保が あのう、 引き受けた
 cu'kurimasu' qteju: sono 'ke:jaku'o kosaete' ru, soide
 作りますっていう その 美約を こさせてる、 それで
 'ko': kozukuri, zjanai 'ko': ko, ko':, e:, 'ko':-
 じゃない コーコー コー え、 'ko':-
 kozukuri irimoja, 'na':, e:, 'zeNmeN ano: goha-
 入母屋 なあ よし 前面 のう る
 izuki' qte ju:koto: utaqte'sa., sora bu' Najaowa na' ga-
 いうことを うたってさ それ 文草は 長い
 ide wakaranago: i' kinarino uta': kata, u'ta izome-
 から わからないが 冒頭の 歌を カタ, 歌い始め
 wa sorede so:site zu:qto kaitearu, soide 'ima' mo
 は それで そうして ずっと 書いてある、 それで 今も
 so: iqtadaga 'u'mino are, ki'jo'sisaNga arjo:
 そう いったのだが 海野 あれ、 清さんが あれを
 ka'jasa'no': na' qte ju:koto' N naqtesa': i'ma' ni igt
 逃さないなって いうことに なってさ その内に 行って
 mo'raqteko' nja sjoNnaiga'na:' jo'kosumo' Ndaka do:daka
 買って来なくては しょうがないが よこすもの どうか

Y so're se'Nbe jome'ta wake'desuka
 それ 全部 読めた 読めですか
 A 'jo' meru
 よめる
 Y 'ze'Nbu jome'ta
 全部 読めたの
 A 'u'N 'jo' meru, 'jome'ruqaju:koto' wa 'sonozio' kegkjoo-
 りん 読める 読めることとは その字を 結局
 ku, 'i ma, 'da ikuga ko:site muneage, mune,
 今 今 大工が こうして 棚上げ 株
 'muna'ageo siru'ra, mu'nuaage'o siruto asokoi mu'na-
 棚上げを するだろう、 棚上げを すると そこへ 棚
 huda'o kaku'ra, mu'nahuda'mo kakusi so:site no'ri -
 礼を 賀くだろう、 株礼も 賀くし そうして 説明
 to ageruwake' dajo, ko'noie'ga sono, 'saina'No
 を あげるわけだ、 この家が その 災難を
 nogarete sono, ma'su masu ha'Nzjo:sirujo':niqcu:ko-
 通れて その ますます 繁昌するようになって
 tow'a, 'to':rjo:wa jo'ma' nja narano: wake' qzura,
 とは 機運は 繁忙ね ならない わけだろう
 sono no'rit'o mo a'ruwae qda 'cjo':no hazime 'kjo':-
 その 祝詞も あるわけだ チヨーの始め (つまり) 今日
 iqte sigoto: hazimeruhiga jo'iqte sigoto: hazimeru-
 行って 仕事を 始める日が 重なって 仕事を 始める
 tokinja 'cjo':no hazimeno norito'mo arusi, mu'ne'-
 時には チヨーの始めの 祝詞も あるし 棚上
 ageno norito'mo arusi sosite, sosite ra'kuse':siki-
 の 祝詞も あるし そして そして 落成式
 'no' norito'mo aruda'jo, so'remo' orsono'ga ka'ite-
 の 祝詞も あるのだ それで 俺のが 曹いて

aru moraqtear u wake' dajo oqsaNni, so' remo' jome' na-
 ある 買ってある わけだよ 和尚に、 それも 読めない
 ida jaqpa' ri, so' idamo' Nde suqto konokurai ka' ite-
 のだ やっぱり、 だから ずっと この位 書いて
 aru 'jo' oreno' ga noritoga, ecide kore: su:qto
 あるよ 俺のが 横顔が、 それで これへ ずっと
 morito: ka' i'te' sere mata 'mo:iqco:' kana:
 祝詞を 書いて それへ 又 もうひとつ かなを
 huqtajacuto mo:iqco:' a' ru wake' dajo, soremo ima
 ふったのと もうひとつある わけだ、 それも 今
 si' maqtaruga' sa' mata ko:n'i: a'reni na' rumoNdade
 しまってあるがさ 又 幸兄 あれに なるから
 ano: cu' go:ni: jocqja: ano:, hi' cujo:mo na' imoNdaga
 あのう 部合に ょっては あのう 必要も ないもんだが
 ha' nasi' no taneni na' rude' mite' mo morauga' na,
 話の 種に なるから 見ても 買うがさ、
 'sore: roj'o' namoNga 'soqco': mireba jo' merudajo
 それへ 通じた者が そっちを みれば 読めるのだ、
 'jome' rudaga ima ore sinqjo: ano makahaNja hara-
 終るが 僕 俺 心経を あの 摩訶般若 波羅
 mita sinqjo: kaNqeoNb' sacudete ju:jacu' no, 'hasimja:
 見蛇 心経 聰世音菩薩って いうのを 始めは
 jo' menakute ima: jo' meruqda' na' soraqde':, 'areto
 読めなくて 今は 読めるからな そらで、 あれと
 iqsjode tokidoki da' te mf' teireba' na, soNnamono
 一時で 時々 出して 見ていればな、 そんなもの
 mino:qtemo kucidakede jo' merudajo, sorja: na' gai
 見なくても 口だけで 読めるのだ、 それは 長い
 mo' Nkuzja:nai' sa, arj' jo' sorega, aruga ima uci' -
 文句ではないさ、 あるよ それが、 あるが 今 家

nja: na' i 'o' kawa' isaNtokoi 'i' ma ano: aNtaga
 には ない 大川井さんの所へ 今 あのう あんた(山口)が
 saka' nokami ano:, 'mijosuke qte ju:sito no zaisjo i
 坂ノ上の あのう、 美代助って いう人の 在所へ
 iku' qteju:, kanke:zjo:, 'mijo' sukesaNno 'ni'saNgA,
 行くっていう 関係上 美代助さんの 兄さんが
 koqci' ni iruda' jo 'na: mijonai: no ni' :saNdaqko
 こちにも いるのだ なあ 美代兄の 兄さんだったね
 'kam' zimoSaNwa, soreno' koga' ima iruwake' da, 'so:
 カミジモさんは、 それの子が 今 いるわけだ、 セウ
 ju:koto' ga aru,
 いうことが ある、

(4)

B so' rja: hoizja: ki' josisaNgA motowa a' zuka' qte
 それは それでは 清さんが もとは 打かって
 itamoN' da
 いたものだね
 A 'ho' :da, kaku' be: 'ga' na':
 そうだ、 角兵衛がな
 B 'o' : kaku' be: 'q de soci' te
 角兵衛で そして

A 「kaku¹be:ga daida¹ na¹」： ano¹ o¹te rano o¹jaka¹
 角兵衛が 代だね あのう、 お寺の 親方
 tadamoNde¹， ke¹nokubowa arja: ke¹nokubo icibaNno
 だから、 原久保は あれは 家久保 一番の
 kaisanNdo: no i¹c¹baN juwe¹ d¹ake¹ na¹： so¹ rega¹，
 開山堂の 一番 上だったな、 それが
 o¹te raga arja: o¹te raga taiheNkerja: si¹bunde¹，
 お寺が あれは、 お寺が 大変なら 自分で
 kome¹ o¹ kurete o¹sa¹ No ka¹tei¹ t¹suraino s¹ito¹ d¹ango:-
 米を 負れて 和尚を 美なっていたらいの 人だそうだ
 de¹， kenokubowa¹， so¹ida¹ monde¹： sono kaku¹be:ge¹ju:¹-
 から、 原久保は だから その 角兵衛っていう
 mona¹ o¹ja:Nt ka¹ite aru¹ ka¹k¹be¹: sewanin kaku¹be:-
 ものは ちゃんと 言いてある 角兵衛 世話人 角兵衛
 toka¹， ko¹ejo¹： kaku¹be:t¹okante ju:koto¹ u¹t¹akte¹ ru:-
 とか 戸長 角兵衛とあって いうことを うだつてある
 wakedajo¹ so¹si¹te¹， kimuratacuzo¹: mo¹ utagte¹ ruwak¹ -
 わけだよ そうして 木村辰藏も うたってあるわけ
 da¹ sono de¹ ko¹wisekini¹ NsajadamoNde¹， so¹remo¹ ha:
 だ その で 工事責任者だよ、 それもなあ
 sorjo¹： ano oremo ko¹site asug¹， naNda¹ na¹ gakunru-
 それを あの 俺も こうして 遊んで、 なんだ 長くなる
 ga¹ ko¹ju¹ko tod¹ake¹ jo¹， ke¹Nziro¹zi¹ gana¹ u¹ra-
 が こういうことだった、 隆次郎助がな 俺の
 gazi¹ga¹ kara¹daga waru¹ itokini¹ na¹ ni¹ jasa¹ Nnicino¹，
 鮎が 体が わるい時には 二夜三日の
 ni¹ jasa¹ Nnicino¹ qte a¹ntaq¹ja: si¹ ramaiga¹ na¹： og¹ sa¹ N-
 二夜三日って あんた方は 知るまいがな 和尚
 ga¹， hu¹cu hu¹taban¹ mi¹ka kaka¹ qteiten¹ konoboj:-
 が 二晩 三日 かかってな この病

ni¹no na¹o site kudasa¹ iate ano¹， o¹kjo:daka¹，
 人を 面して 下さいって あのう お絆だが
 si¹Nz¹i No siruda¹ jo¹， ni¹ jasa¹ Nnicino¹ ki¹to¹ qteju:wa-
 信心を するんだ、 二夜三日の 祈願っていうわ
 ke¹da¹， ki¹take¹ toga arukai¹， ni¹ jasa¹ Nnicino¹ kito¹ -
 けだ、 聞いたことが あるかい 二夜三日の 祈願
 qte ju¹kotowa¹ ko¹ni¹ nara ko¹ni¹ ga¹ ho¹to¹ ni¹
 って いうことは 兄兄なら 幸兄が 本当に
 karadaga warukute do¹mo¹， no¹ oriino¹ q¹c¹ju:wake¹ d¹ajo¹，
 体が わるくて どうも わる力がないっていうわけだ
 sono¹ to¹ kini tano¹ muto¹ hu¹ cukamika¹ hu¹ taban¹ Naka¹ qte
 その時に 頬むと 二日三日 二晩かかる
 ki¹to¹ site kureruda¹ jo¹， so¹site¹ so¹rew¹ ma¹ kura-
 祈禱をして くれるんだ そうして それを 枕
 moto¹ no sita haqte¹ na¹： sosite soide kioja¹ sume¹ ru¹
 許の 下に 貼ってね そして それで 気を休める
 wakeda¹ na¹： sore na¹ o¹rukamo¹ siren¹jo¹ sorja¹，
 わけだな、 それ藍るかも 知れないよ それは
 sono ni¹ jasa¹ Nnicino¹ kito¹ o¹ra¹ go¹ so¹rjo¹ wa ta¹ no¹ -
 その 二夜三日の 祈禱を 俺の 想念(兄貴)は 類
 Ndadajo¹ oqsa¹NNi¹， so¹site¹ si¹cu¹， e¹ja¹ te¹， oqsa¹ N-
 んだのだ 和尚に、 そうして 実よ、 合弟よ 和尚
 ni¹ ni¹ jasa¹ Nnicino¹ kito¹ o¹ta¹ no¹ Nde¹ aruqde¹， ha¹ i¹
 に 二夜三日の 祈禱を 頼んで あるから もう
 cjo:do¹ h¹l¹ ga¹ ki¹ teiruq¹ dade¹ moraqteko¹ i¹qte ju:koto¹ -
 丁度 日が 来ているから 買ってといって いうこと
 de¹， oreg¹ morai¹ i¹qtadajo¹， ano ojaziga¹ sin¹ -
 俺が 買いに 行ったんだ、 あの 父親が 死に
 so¹nadade¹， so¹siteiqte¹ moraqte¹ sa¹， ano o¹sewa¹ -
 そうだから、 そりして行って 買ってさ、 あのう 对話

sanDaqke , ki⁷to: tano⁷Ndade o⁷huda⁷ mo⁷raini
 さんだった 斋藤 頼んだから お札を 買いに
 kita⁷ate juq⁷tatokoroga ku⁷retawake⁷da , ho⁷sute
 来たって 云った所が (それを) 貰れたわけだ。 そうして
 moraqt⁷sa , o⁷ritekitatokoroga , o⁷ter⁷ nositaqka⁷:no
 買ってさ、 下りて来たところが お寺の下側の
 ano: ka⁷menoj⁷:saNno ki⁷neNhiwo sigeiteira⁷ra ,
 あのう 亀之丞さんの 紀念牌を 知っているだろり、
 a⁷soko⁷de k⁷o⁷ magaqte hai kenoku bonoh⁷e ikika-
 あそこで こうと 曲がって もう 家久保の方へ 行き
 ka⁷rudajo , a⁷sokoma⁷de ki⁷tatokoroga oqsaNga , ano:
 かかるんじ、 あそこまで 来たところが 和尚が あのう
 ho⁷Ndo⁷:no ano irigucini tagteite ko⁷siteite , a:
 本堂の あの 入口に 立っていて こうしていて 「あ」
 te⁷odase a⁷aqejuqteite , jo⁷ba:ru⁷dajo orjo:
 手を出せ あゝ」って云っていて 呼ぶのだと 魔鬼、
 jo⁷ba:rudajo sonotoki⁷:no sorejo: moraqtato⁷kino
 呼ぶのだよ その時の それを 買った時の
 hanasjo⁷: siruto⁷sa , (パンパンと手を打つ)
 話を するとき
 ko⁷site te⁷o ta⁷takuda⁷na oqsaNwa bakani :+ pita-
 こうして 手を 命ぐんだな 和尚は ほかに、 ピタ
 pitapita⁷qte te⁷o tataiteite na⁷: . joiaNna ka⁷mjo:
 ピタピタって 手を 命いていたな。 ほどほどの 紙を
 mogteite ko:siruda⁷jo , a⁷re , korja ma⁷da ohu⁷dao
 持ってきて こうるんだよ。 あれ これは まだ お札を
 kure⁷rurasi: ja⁷:qtu: to⁷koden⁷: . ma⁷ta o⁷huda⁷,
 くれるらしいなっていう ところでね、 また お札を
 siNbunNgami: , o⁷huda⁷qte kaitajaco: kaka⁷ete iqtawa-
 新聞紙に お札って 寄いたのを かかえて 行ったわ

ke⁷da oqsa Ntoko⁷i so⁷sita tokoro⁷ga i⁷maju:jacuo
 けだ 和尚の所へ そうしたところが 今いうのを
 kureta⁷ekeda , da⁷ikusaN ko⁷ju⁷:moN ga ano uci⁷ni
 くれたのだ 大工さん こういうものが あの 家に
 a⁷ruqa⁷na , ote razja⁷: hicu jo⁷:no na⁷imo Ndade ,
 あるがな お寺では 必要の ないものだから、
 hae⁷: bo⁷keko⁷:baidaqke⁷na⁷: anoto kja⁷:na⁷: , bo⁷ke-
 もう 抜け気味だったな あの時はな ほか
 ko⁷:baidemon⁷a iga ka⁷zeNko⁷:saNga jaqt⁷:damoNde
 気味でもないが もう 善光さんが やってるんだから
 hore oqsa Nwa , so⁷sute ku⁷roi iqt⁷te na⁷daja⁷:q-
 それ 和尚は そうして 朝へ 行って 何んだらっ
 cuqte hi⁷rogete mitatokoroga sokode hoNdo⁷:de ,
 て云って 広げて みたところが そこで 本堂で
 akete mi⁷tatokoroga j⁷p⁷ka⁷N ika⁷idajo ko⁷: , ano:
 剥けて みた所が いいかげん 大きいのだ こう あのう
 kami wo , daika⁷ini sirukamio cu⁷ide na⁷: no
 紙を ダイカイに する紙を 繋いでね の
 ka sunosan⁷ga , sore⁷ka⁷ite arudajo zju⁷:buNno icin⁷ni
 カズノさんが それへ書いて あるんだ 十分の 一に
 ka⁷itearudado , mi⁷tatokoroga t⁷anto zimo jome⁷mo-
 見てあるから 見たところ たくさん 字も 読め
 sino:ga , ki⁷muratacuzo⁷:naNtju:koto: ka⁷itearu⁷dajo,
 しないが 木村辰蔵なんということを 書いてあるんだ
 korja: hoNdag⁷a tonikaku zu⁷meN mitadakeqde , korja:
 それは だが とにかく 図面 見ただけで これは
 ta⁷isitamoldaqtu:de horja: ka⁷Nda:ja⁷ , da⁷ga
 たいしたもんだというので それは 勉だよ。 だが
 da⁷itai⁷ hore oremo ba⁷ka , su⁷Nmino ba⁷kaqzja:naide
 大体 それ 俺も 馬鹿。 完全な 馬鹿ではないから

waka⁷ q tada, korja kaNnoNdo: no, seq⁷ ke: zudaqteju:-
判ったのだ、これは 鋼音堂の 設計図だっていう

koto⁷ wa kwa⁷ q tada do⁷ mo korja oqsa⁷ waru ina o⁷ re
ことが 判ったから どうも これは 和尚さん 思いね 俺

moraqte⁷ q temo joidaka⁷ q tara e⁷ o⁷ desu e⁷ desuqte
買って行っても 良いのかって云ったら ええ 良いです 良いですって

ko:ju⁷ :waka⁷ q da ho⁷ re oqsa⁷ Nga, a⁷ moraqtesa:
こういうわけだ それ 和尚が あく 買ってさ

do:de⁷ o⁷ jasiga su⁷ :su:site⁷ rejacui mise⁷ te, imasa⁷-
お父さんが スヤシイしてるのへ みせて さっ

qkino hanasiga ha⁷ i mata ku rikae sukotoni naruga
きの 話が もう 又 くりかえすことに なるが

so⁷ si⁷ te te ni na iqtawake⁷ da, so⁷ sitara ko⁷ qda
そうして 手に 入ったわけだ、 そしたら 今度は

「kjo⁷ neN zjanai 「ko⁷ tosiqda kaNnoNdo: no Janega ssiru-
去年 ではない 今年だ 鋼音堂の 壁板替える

toki⁷ ni, 「zicuni⁷: arjo: mi⁷ se⁷ te kurjo:, oremo
とき お兄 あれを みせて くれ、 俺も

o⁷ renoda⁷ ini ko⁷ :site jaqtadam⁷ Ndade, soide soreo
彼の代に こうして やったんだから それで それを

ki ro⁷ kuni noko⁷ site okitaide ciq⁷ to⁷ mise⁷ tekurjo:-
記録に 残して 置きたいから 少し みせてくれっ

qte, scijza⁷: ci⁷ qto mise⁷ tejaru, ci⁷ atomise⁷ te-
れて それでは 少し みせてやる、 少しみせて

Jaruqte ci⁷ ato⁷ aggu: kutja: kikano⁷ qkoga scizja⁷:.
やるって 少じていう 口は 開かなかったが それでは

a⁷ resijo so⁷ :sitatokoroga sorjo: uci: do⁷ ko: sagas-
あれだし そうしたところが それを 家に どことを 探

itemo doko:sagaimo sa⁷ pa⁷ ri nani⁷ jo, ha⁷ te⁷ na
しても どこを探しても さっぱり 何さ はてな

do⁷ koi suqtamoNzura⁷ qte ja:tokode ei⁷ mizui mi⁷ noru⁷
どこへ 失ったもんだうって いうところで 清水へ 烈(みのる)

koso:ga ho⁷ re, kju:sakuno sa⁷ to⁷ :sjo⁷ :zintokoi
小僧が それ 久作の 佐藤庄次のところへ

de⁷ ei⁷ ni iqte⁷ :su:ra sigtoni, sa: sjo⁷ :zintokoi
弟子に 行ってるんだろう 仕事に さあ 庄次の所へ

iqte⁷ :ja mi⁷ bo⁷ :, ano: kaNno⁷ Ndo: no seqke⁷ :zuo
行ったのさ 「ミ一坊 あのう 鋼音堂の 鏡叶園を

「mo⁷ qtekite a ruraqcjquqatokoroga, o⁷ rja: moqteki⁷-
持ってきて あるんだろうって云ったところが 俺は 持ってき

oja: na⁷ qte ju:da⁷ jo, mo⁷ teki⁷ kenai wakia⁷ nai
では ないって ううん、 持ってしない わけはない

uci⁷ nina⁷ iqcjquqata, so⁷ izja⁷: oto⁷ qca: oroga
家にないって云ったら それでは お父さん 俺が

ka⁷ midana⁷ i ano:, agete⁷ ruqte⁷ ko⁷ ju:wake dajo,
神棚へ あのう あげてあるって こういうわけだよ

ki⁷ temi⁷ tatoqkora⁷ ka⁷ misaNno tanae⁷ na⁷, zibuNno
来てみたところが 神様の 僕への 自分の

hamamacuno kuNraNzjono ano:, naNda socujgo⁷ :sjo⁷
浜松の 訓練所の あのう なんだ 卒業证书

demo naNdemo zeNb⁷ uro: matomete⁷ na, ma⁷ ite⁷ na,
でも 何でも 全部 それへ 累めてね 卷いてね

ko: 「kanjo⁷ cu⁷ mu irerumo⁷ Nga a⁷ ruda sono so⁷ re:
こう 旗を 包む 入れるものが あるんだ その それへ

irete⁷ na, ka⁷ mida nai irete⁷ na ho⁷ ko⁷ rio ma⁷ sirok⁷
入れてね 神棚へ 入れてね ほっこり ほっこりを まっ白く

tate⁷ teiruda, a: kokoni a⁷ qtagcju:toko de daito⁷-
立てているのだ、 あここに あったって云うところで 出して

sa ho⁷ :site tokoi moqteiqte jagcjqags, jagcja-
さ そうして ところへ 持っていって やっちゃった、 やっちゃ

qta^{ga}. 「sa¹ qkimo konosito¹nimo ki:taqgega
ったが、さっきもこの人にも聞いたんだけど

「ki¹ jesisanga 「to¹ ruwakə nja: ikama¹na」：
消さんが取る販には行くまいな

areqdə¹na :
あれでな

B oq¹sə¹Nni azuke¹tamo¹Ndazurade
和尚に届けたものから

A a¹zuko¹tamo¹Ndade 「ki¹ jesisantoko¹i i¹ku, 「to¹ qtaq-

「temo¹ jo¹ imoNda¹na
ても良いもんだな

B joiq¹da¹na, o¹rja: azuke¹tadaqkeqteju:, koto¹Nna -
良いんだな、俺は預けただけていり ことにな

rja:
れば

A 「hoide oqsa¹Nga ko¹:daeqju:wa¹jo:, sono, sorjo:
それで和尚がこうだっていう、そのそれを

ziou, zi¹cuqdaiga mijo¹: wa na¹idaga¹na:, ano:,
実大工が見ようはないのだがな、あのう

korja:, ano: o¹ter¹aqja: ano: hicujo:wa naiga
これはあのうお寺ではあのう必要はない

o¹rja: ano hicujo:no arumoNde oqsa¹N korjo: ka si-
俺はあの必娶のあるものC和尚さんこれを貸し

te¹ kurjo¹:qteju:de da¹ikusaNni ka¹se¹te Jagta¹qte,
くれっていうから大工さんに貸せてやったって

juq¹sa¹qtjuiua¹na, 「ki¹ jesisanNni kike¹ba:, so¹rja:
云ったっていうんだ、消さん聞いてねそれは

cigau¹cuqutada¹jo:, oq¹saNga ko¹:ju:wakede ano:,
迷うっていったんだ、和尚がそういう販であのう

「o:i¹ cuqte ku¹ retaqte ju:koto:「na, oqsaNto zenko¹:-
おひいって云ってくれたっていうことをな和尚と普光

sanTo¹ «saNni¹ Neitatokode sono hanasjo¹: 「sizutomo q-
さんと三人集まつたところでその話をしようと思つ

tadaqke¹jo oremo joqtatoki¹ni na soida¹N sonohana-
たんだよ俺も寄ったときにはだけどその話

si¹marja: siqko¹si simaqta¹ga, arja: 「to:ne¹NhiNm-
まではしないでしまったが、あれは益品み

tainamodo keqkjoku oq¹saNga oreni iku¹re kuretaq-
たいなもので結局和尚が俺にいくら実際に貰れた?

temo¹ o¹reg¹ midasa¹rete tora¹reraja: 「ko:n¹ni¹ni
ても俺が見つかって取られれば、幸児に

torarerja:, 「ko:n¹ni¹:no mo¹Nnara, 「ko:n¹ni¹:qte「keno-
取られれば、幸児のものなら幸児って家

ku bono monda¹jo¹na arja:, honTo:wa¹:, 「dokoeka¹
久保のもんだよなあれば、本当はどこへ

ma:teqte ma:teqte kijo¹sisaNtokoi osama¹qtajaco:
帰って帰って清さんのところへおさまたやを

「nanjo: ore oqa, ma¹ta¹「jokose jokose qoja: tora-
何を俺おさ…、又よこせよこせといつては取る

reno¹:na: mogto arja:, 「soko¹i ikuto oqsaNga,
ことはできないなもっとあれはそこへいくと和尚が

「cum¹o kinja: narano¹:kotoni naru¹de¹na:, azukari-
罪を着なければならないことになるからな、預かり

mono: sitoni jaru¹qte kotowa
ものを人にやるってことは

B 「soNnako¹:ta: nai orja: moraqta¹moNdade, orja:
そんなことはない俺は買ったものだから俺は

to¹rukeNriga, 「zju¹bu¹N aruda¹qtju:kotoni nara¹:na:
取る権利がじゅぶんあるのだということになるよね

注

ziga³: , nusu³ qdamoNza:³ nai , mo³teke³ qejuqte
実さん 盗んだものではない 持って行って云って

- A nusu³ qdamoNza:³ nai oreni kuroru
盗んだものでは ないから 俺に くれる
- B oreni kurjo:³ toka ka³ sjo³ : qejuqtaqja:nai mu³ko:de
俺に くれとか 貸せって云つたのではない 向こうで
- sir³ mosino:mono³ agemasu³ qte ku³ retamonoDa³ de³
知りもしないものを 上げますって くれたものだから
- o³ rja: mo³ ractamondaka³ de³ , orja: kajase³ nai³ teju:
俺は 買ったものだから 俺は 返すことができないという
- kotoNnarja: , sjo³ Nnadaide sonositono keNri³ wa³
ことにならば 仕方がないから その人の 権利は
- aruda³ na³ hoigda³ ga , keNriwa na³ ikota:naida³ jo
あるんだな だけど、 権利は ないことはない
- daga moragtasito³ wa
だが 買った人は
- A ke³ Nri³ ga³ na³ : , suNmi ke³ Nriwa naikota³ nai³ ga ,
権利がね、 せんせん 権利は ないことはない、
- muko³ :qja: icizi ote³ rae azuketamono: zio³ ni:ga
むこうでは 一時 お寺へ 頂けたものを 実兄が
- sagaitte mo³teqtaqcu: kotoNaru³ to³ , muko:nimo
我して 持って行つたという ことになると むこうにも
- ke³ Nriga aruqda³ na ,
権利が あるのだな
- B u³ u³ a³ muze tamonona³ ra³ na³ :
うん うめたものならな

P 14 (1) たどつていけば血筋にあたる、の意。

P 14 (2) 人名「みや」のことか。

P 18 (3) ガードは「がんこ」の意。

P 29 (4) sita の部分の不鮮明により推定。

P 30 (5) イコジカは「せむし」の意。

P 40 (6) 地名。キリクイともいう。「キリクイの組」の意。

P 43 (7) 「小当」というあて字のしかたもある。湯島には、オードーコ ド・ヤシャゴードと云う、三つの組がある。「民俗学辞典」 「頭屋」の項などを参照して考えると、これらは「大頭屋」「小頭屋」「ヤシャゴ頭屋」の意味だと思う。ヤシャゴは、「骨孫の子」のこと。

P 59 (8) そういうえば、私も方言調査で家を訪問するとき、この方法で断 わられた経験がある。

P 64 (9) 屋号。

P 69 (10) お父さんから、のいい損ない。

P 72 (11) 前野の人。

P 74 (12) 大川村地内の部落名。本川根町へ通ずる道筋にある。

P 76 (13) この語音の前に出た話で、今から何年か以前、プロパンガスが 村に普及はじめた時、静岡市から売りこみに来ていたプロバ ン屋の「花村」が、その宣伝活動のさい、サービスとして生花 の講習をしたこと。

P 81 (14) 美代助さんは現在、新居町に住んでいて私とはじつこんの間柄

である。この英代助さんに教えて貰つて大川村坂ノ上のあるお
宅を訪ねる道すがら大森さんと知りあつた。

P 81 開 大川井清さんの先祖。

P 82 開 大川井清さん宅の屋号。

P 87 開 大森さんの子。

非売品

1972年3月

国立国語研究所 語学ことは研究室 発行

115 東京都北区西ヶ丘3丁目9番4号

